

岩手県総合計画審議会

「県民の幸福感に関する分析部会」

令和6年度年次レポート

令和6年11月



# 目次

第1章	本報告書の内容	1
第2章	令和6年度の分析事項	3
第3章	調査結果	
3.1	「県の施策に関する県民意識調査」の結果	6
3.1.1	調査目的及び対象等	
3.1.2	調査結果の概要	
3.1.3	調査の回収率の推移	
3.2	「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果	14
3.2.1	調査目的及び対象等	
3.2.2	調査結果の概要	
第4章	分析結果	
4.1	分析方針等について	18
4.2	主観的幸福感について	25
4.3	基準年（令和5年）と比較した分野別実感の分析について	29
4.3.1	基準年と比較して実感が上昇した分野（余暇の充実）	
4.3.2	基準年と比較して実感が横ばいの分野（心身の健康、家族関係、子育て、 子どもの教育、住まいの快適さ、地域社会とのつながり、地域の安全、仕 事のやりがい、必要な収入や所得、歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ）	
4.4	計画開始年（平成31年）と比較した分野別実感の分析について	42
4.4.1	計画開始年と比較して実感が上昇した分野（心身の健康）	
4.4.2	計画開始年と比較して実感が低下した分野（地域社会とのつながり、地 域の安全、仕事のやりがい、必要な収入や所得）	
4.4.3	計画開始年と比較して実感が横ばいの分野（余暇の充実、家族関係、子 育て、子どもの教育、住まいの快適さ、歴史・文化への誇り、自然のゆた かさ）	
第5章	まとめ	
5.1	主観的幸福感について	56
5.2	基準年（令和5年）と比較した分野別実感の分析について	56
5.2.1	基準年と比較して実感が上昇した分野（余暇の充実）	
5.2.2	基準年と比較して実感が横ばいの分野（心身の健康、家族関係、子育て、 子どもの教育、住まいの快適さ、地域社会とのつながり、地域の安全、仕 事のやりがい、必要な収入や所得、歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ）	
5.3	計画開始年（平成31年）と比較した分野別実感の分析について	59
5.3.1	計画開始年と比較して実感が上昇した分野（心身の健康）	
5.3.2	計画開始年と比較して実感が低下した分野（地域社会とのつながり、地 域の安全、仕事のやりがい、必要な収入や所得）	
5.3.3	計画開始年と比較して実感が横ばいの分野（余暇の充実、家族関係、子 育て、子どもの教育、住まいの快適さ、歴史・文化への誇り、自然のゆた かさ）	

【追加分析】

新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析 . . . . . 63

【補足資料】

1 広域振興圏別の主観的幸福感及び分野別実感の推移 . . . . . 82  
2 「子育て」に関する分野別実感の推移 . . . . . 85

<参考>

参考1 県民の幸福感に関する分析部会運営要領 . . . . . 88  
参考2 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿 . . . . . 89  
参考3 令和6年度における部会開催状況等 . . . . . 89

別冊【資料編】

参考資料1 「令和6年県の施策に関する県民意識調査」調査票  
参考資料2 「令和6年県の施策に関する県民意識調査」結果  
参考資料3 「令和6年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」調査票  
参考資料4 「令和6年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」結果  
参考資料5 「令和6年県の施策に関する県民意識調査」属性別平均点  
参考資料6 「令和6年県の施策に関する県民意識調査」属性別分析結果  
参考資料7 「令和6年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」回答意見とりまとめ結果  
参考資料8 「令和6年度幸福について考えるワークショップ」の開催結果

## 第1章 本報告書の内容

### 【趣旨】

県では、総合計画である「いわて県民計画(2019～2028)」(以下「県民計画」という。)において、幸福を基本目標に掲げ、10の政策分野を設定するとともに、各分野にいわて幸福関連指標を設定して政策を展開しています。

計画の推進に当たっては、アクションプランである「政策推進プラン」について、政策評価の仕組みに基づく進捗管理を行うこととしており、いわて幸福関連指標をはじめとする客観的指標の達成状況に加え、県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識や、社会経済情勢も踏まえた総合評価を行い、政策立案に反映させていくこととしています。

そのため、岩手県総合計画審議会において、令和元年6月に「県民の幸福感に関する分析部会」(以下「分析部会」という。)を設置するとともに、「県の施策に関する県民意識調査」(以下「県民意識調査」という。)に幸福に関する設問を設け、令和2年以降、毎年の県民意識調査結果を、第1期政策推進プランが開始する直前の平成31年の調査結果と比較し、分野別実感の変動要因について分析を行ってきました。

今年度の分析においては、第2期政策推進プランが令和5年度に開始されたことから、第2期政策推進プランの開始直前の県民意識調査の調査年である令和5年を基準年(以下「基準年」という。)とし、令和6年の県民意識調査の結果と比較した分野別実感の変動要因について分析を行いました。

また、幸福に関する実感については、長期的な視点で維持・向上を図るという観点から、県民計画の開始直前の県民意識調査の調査年である平成31年(以下「計画開始年」という。)の調査結果と比較し、分野別実感の長期的な変動要因についても分析を行いました。

この報告書は、こうした令和6年度における分析部会の分析結果をとりまとめたものです。

### 【概要】

令和6年県民意識調査結果に、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の実感平均値は3.51点となり、基準年より0.02点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、主観的幸福感は、基準年に比べて横ばいと考えられます。(P25参照)

一方、計画開始年と比較すると0.09点上昇しており、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に上昇していることから、主観的幸福感は、計画開始年に比べて上昇していると考えられます。

同様に、令和6年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値を見ると、表1のとおり、基準年に比べて1分野で上昇、11分野で横ばいとなっています。また、計画開始年に比べて1分野で上昇、7分野で横ばい、4分野で低下となっています。本書においては、これらの変動要因について分析を行いました。(P29以降参照)

県民意識調査においては、平成28年から幸福に関する設問を設けており、幸福に関する調査を開始して以降、一貫して高値又は低値で推移している属性についても、その要因の分析を行いました。

併せて、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性について、昨年

度に引き続き、追加分析を行いました。(P63 参照)

表 1 分野別実感の変動の状況

	基準年（令和 5 年）との比較	計画開始年（平成 31 年）との比較
上 昇	（1 分野） 余暇の充実	（1 分野） 心身の健康
横ばい	（11 分野） 心身の健康、家族関係、子育て、 子どもの教育、住まいの快適さ、 地域社会とのつながり、地域の安全、 仕事のやりがい、必要な収入や所得、 歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ	（7 分野） 余暇の充実、家族関係、子育て、 子どもの教育、住まいの快適さ、 歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ
低 下		（4 分野） 地域社会とのつながり、地域の安全、 仕事のやりがい、必要な収入や所得

## 第2章 令和6年度の分析事項

県では、県民の主観的幸福感や幸福に関する分野別実感について、毎年、無作為抽出により5,000人の対象者を選定して行う県民意識調査により把握しています。

しかし、当該調査のみでは、分野別実感の変動要因を推測することは困難であることから、分析部会において検討の上、令和2年1月から調査対象者を固定した「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」（以下「補足調査」という。）を実施することとしました。

補足調査は、県民計画の開始直前に当たる平成31年県民意識調査の回答者のうち、補足調査に御協力いただける方から600人を調査対象者として抽出し、以降、県民意識調査と同時期に実施しています。

なお、補足調査の開始から4回の実施を経て、転居などにより調査継続が困難となった対象者の増加や対象者の年齢構成の変化等があったことから、令和6年の調査実施に当たり、対象者の追加・更新等を行いました。調査開始当初の対象者のうち調査継続に御同意いただいた448人に、令和5年県民意識調査の回答者のうち、補足調査に御協力いただける方から抽出した156人を新たに加え、604人を対象者としています。

表2 県民意識調査と補足調査

	県民意識調査	補足調査
目的	県民計画に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること	県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと (対象者を固定することで、対象者の実感が前回調査から変動した項目を把握し、県民意識調査の分野別実感が変動した要因を推測する)
対象	県内に居住する18歳以上の個人	県内に居住する18歳以上の個人
調査人数	5,000人	604人（各広域振興圏約150人）
抽出方法	選挙人名簿からの層化二段無作為抽出（対象者は毎年抽出）	・平成31年県民意識調査回答者のうち補足調査にご協力いただける方から選定 ・令和6年の調査実施に当たり、令和5年県民意識調査回答者のうち補足調査にご協力いただける方から選定した対象者を追加 (対象者は固定)
調査時期	毎年1月～2月	毎年1月～2月
備考	—	令和5年補足調査から、分野別実感の回答理由と関連の強い要因について、具体的な事例内容に関する自由記載欄を追加

分析部会では、県民意識調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の方法により分析を行いました。

○ **主観的幸福感、分野別実感の概況の把握（令和6年県民意識調査結果の属性分析）**

県民意識の属性別での特徴を把握するため、令和6年県民意識調査結果を対象に、主観的幸福感と分野別実感の属性差の有無を分析

（集計方法）

主観的幸福感及び分野別実感の分析に当たっては、5段階の回答に応じて次のとおり配点することで得点化し集計（リッカート尺度）

- |               |    |                     |    |
|---------------|----|---------------------|----|
| ・ 幸福である、感じている | 5点 | ・ やや幸福である、やや感じている   | 4点 |
| ・ どちらでもない     | 3点 | ・ あまり幸福ではない、あまり感じない | 2点 |
| ・ 幸福ではない、感じない | 1点 |                     |    |

なお、選択肢には「わからない」の回答欄があるが、「わからない」及び「未回答」は、集計から除外

○ **分野別実感の変動要因の推測（基準年及び計画開始年との2時点比較）**

- ・ 県民意識の変化の状況を把握するため、令和5年（基準年）及び平成31年（計画開始年）と令和6年の県民意識調査の結果から、2時点間で有意に変化した分野別実感や属性の有無を分析
- ・ 2時点間で実感が上昇・低下した分野について、補足調査において当該分野別実感が上昇・低下した人の回答項目等から、その要因を推測

○ **分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性の把握とその要因の推測**

平成28年から令和6年までの県民意識調査の結果から、分野別実感の平均値が一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性について、令和6年補足調査において当該属性に該当し、高値にあつては「感じる・やや感じる」、低値にあつては、「感じない・あまり感じない」と回答した人の回答項目等から、その要因を推測

表3 分析等に係るスケジュール

年度	調査	分析	
平成12年度 )	県民意識調査	—	
平成27年度			
平成28年度		幸福実感に係る調査を開始 (H28.1~)	
平成29年度			
平成30年度			
平成31年度 (令和元年度)	補足調査 (R2.1~)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補足調査の設計</li> <li>・過去の県民意識調査の分析</li> </ul>	
令和2年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析</li> </ul>	
令和3年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析</li> </ul>	
令和4年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析</li> <li>・県民の幸福実感の推移の分析</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析</li> </ul>	
令和5年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析</li> <li>・子育て分野に関する分析</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析</li> </ul>	
令和6年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析</li> </ul>	
令和7年度以降			

第1期政策推進プラン

第2期政策推進プラン

### 第3章 調査結果

#### 3.1 「県の施策に関する県民意識調査」の結果

##### 3.1.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 県民計画に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること
- ② 調査対象 県内に居住する18歳以上の個人
- ③ 対象者数 5,000人
- ④ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和6年1～2月（毎年調査）
- ⑦ 回収者数 2,861人
- ⑧ 有効回収率 57.2%
- ⑨ 回答者の属性

【性別】	回答者数	割合
男性	1,316	(46.0)
女性	1,510	(52.8)
その他	2	(0.1)
不明	33	(1.2)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	20	(0.7)
20～29歳	123	(4.3)
30～39歳	210	(7.3)
40～49歳	371	(13.0)
50～59歳	479	(16.7)
60～69歳	638	(22.3)
70歳以上	1,008	(35.2)
不明	12	(0.4)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	866	(30.3)
県南広域振興圏	846	(29.6)
沿岸広域振興圏	655	(22.9)
県北広域振興圏	494	(17.3)

【居住年数別】	回答者数	割合
10年未満	84	(2.9)
10～20年未満	100	(3.5)
20年以上	2,590	(90.5)
不明	87	(3.0)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	237	(8.3)
家族従業者	81	(2.8)
会社役員・団体役員	178	(6.2)
常用雇用者	812	(28.4)
臨時雇用者	326	(11.4)
学生	38	(1.3)
専業主婦(主夫)	331	(11.6)
無職	662	(23.1)
その他	84	(2.9)
不明	112	(3.9)

【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	376	(13.1)
2人	1,043	(36.5)
3人	562	(19.6)
4人以上	111	(3.9)
子どもはいない	595	(20.8)
不明	174	(6.1)

【世帯構成別】	回答者数	割合
ひとり暮らし	374	(13.1)
夫婦のみ	645	(22.5)
2世代世帯	1,141	(39.9)
3世代世帯	348	(12.2)
その他	149	(5.2)
不明	204	(7.1)

( ) 内は%

(注) 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。

### 3.1.2 調査結果の概要

#### ① 主観的幸福感（設問3-2：あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。）

主観的幸福感について、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、5点満点中3.51点（基準年：3.49点、計画開始年：3.43点）となりました（図1）。

なお、県全体の主観的幸福感については、幸福と感じる（「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」と回答した人が58.5%（基準年：56.9%、計画開始年：52.3%）、幸福と感じない（「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」と回答した人が17.3%（基準年：17.1%、計画開始年：19.3%）となりました（図2）。

図1 【県民意識調査】主観的幸福感の平均値（県計）の推移〔点数〕

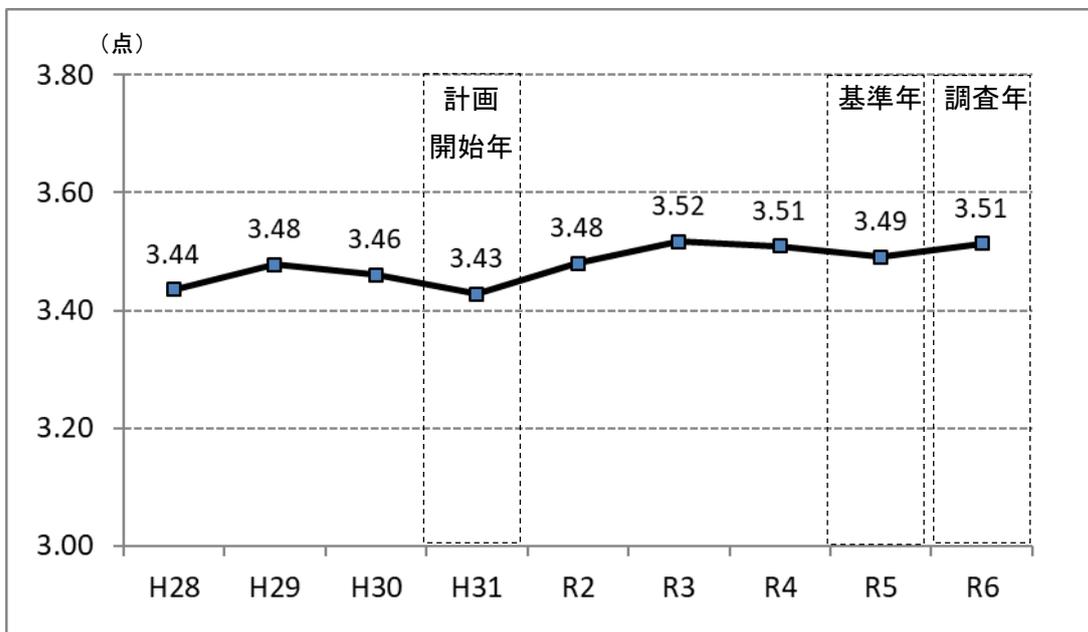
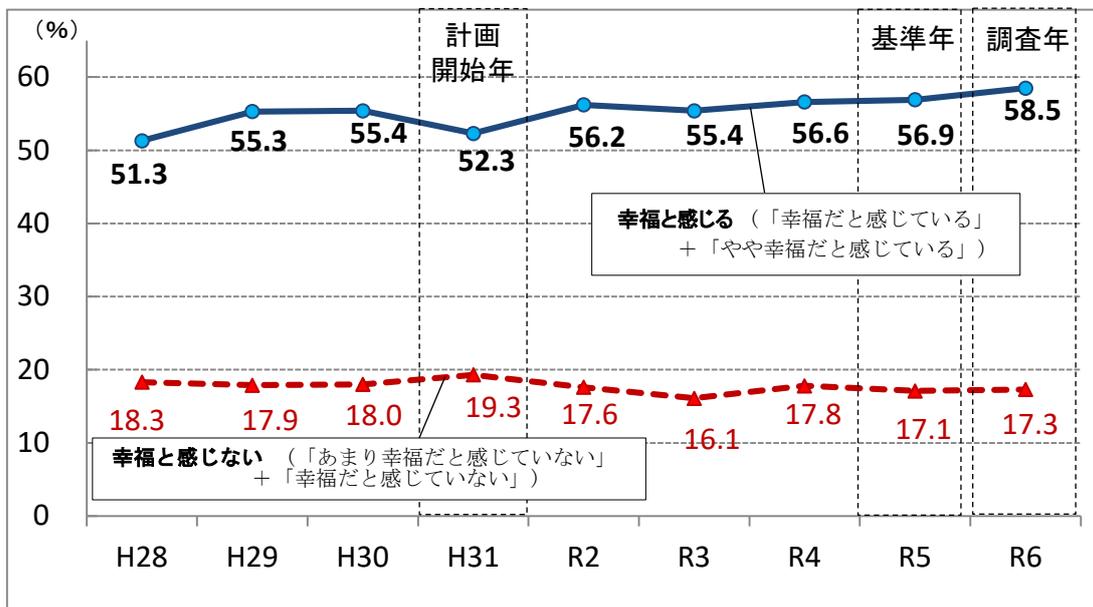


図2 【県民意識調査】主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕



② 分野別実感（設問3-1：現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。）

12分野について実感を聞いた結果、「自然のゆたかさ」の実感が4点を超えているほか、「家族関係」や「地域の安全」の実感も高くなっている一方で、「必要な収入や所得」の実感は継続して低くなっています。（図3。令和6年調査の分野別実感の平均値が高い順に整理）

なお、分野別実感の動向については、図4のとおりです。

図3 【県民意識調査】分野別実感の回答状況

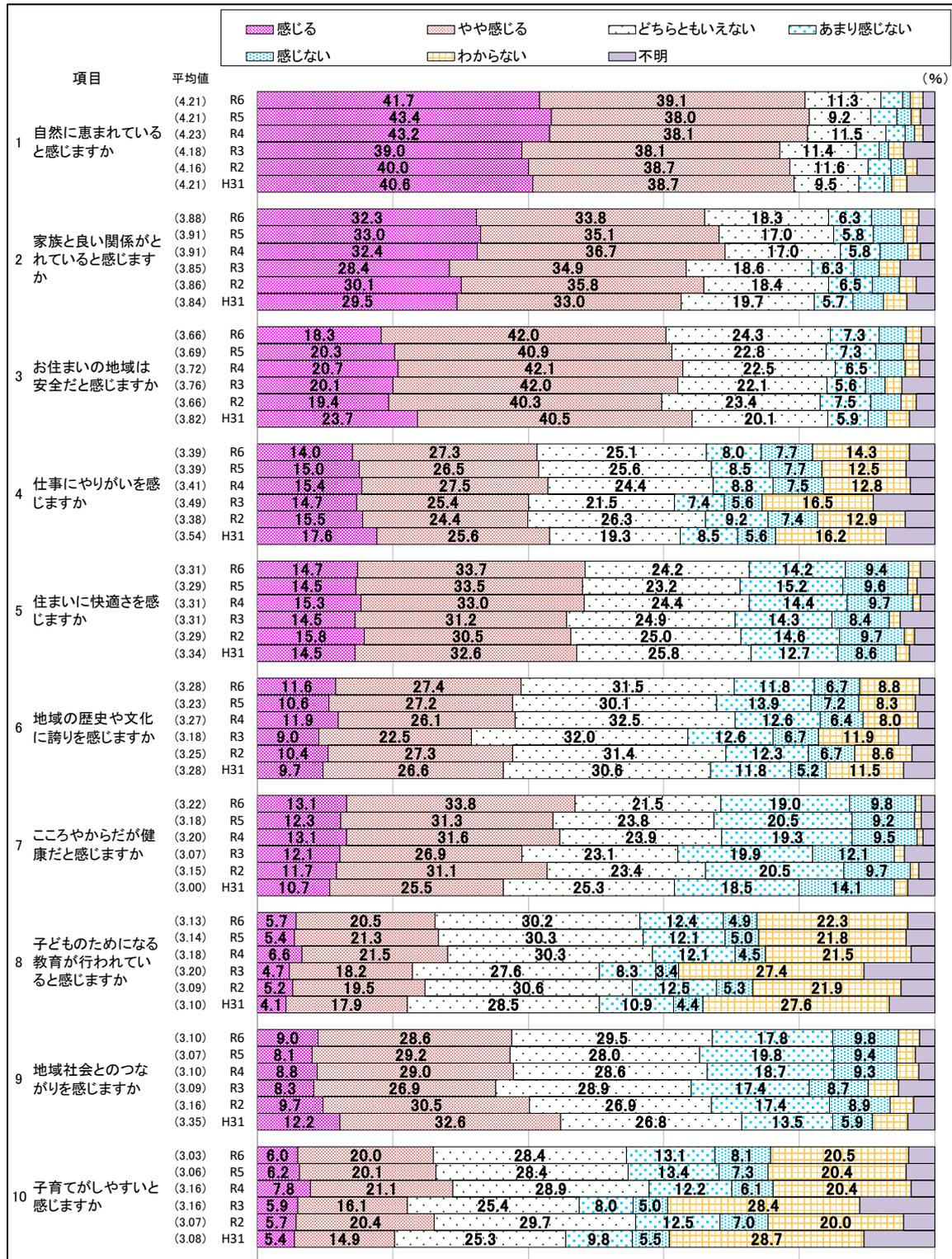
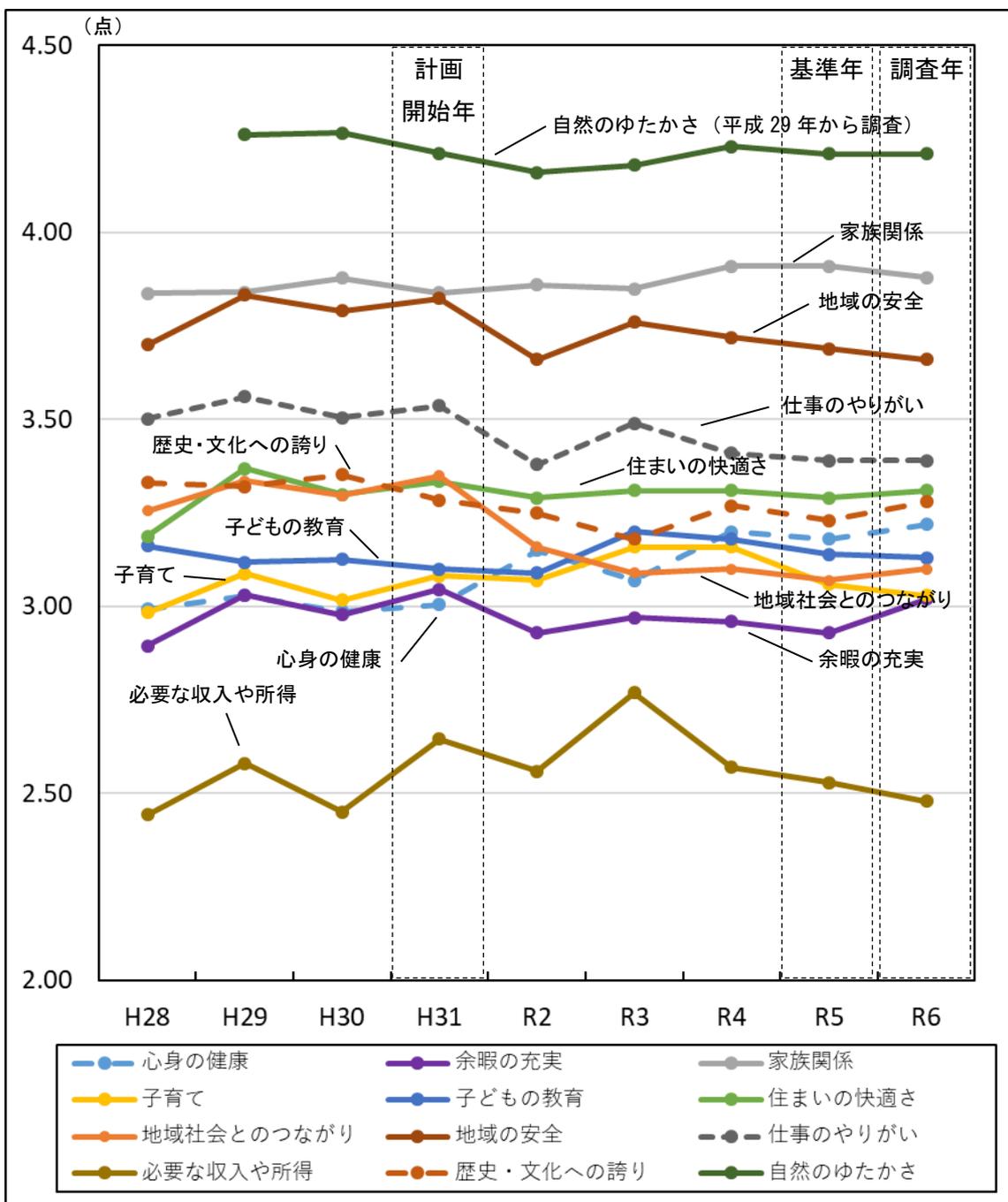


図3 【県民意識調査】分野別実感の回答状況（続き）

11 余暇が充実している と感じますか	(3.02) R6	11.0	25.9	25.9	20.2	12.7
	(2.93) R5	9.2	25.3	24.4	24.2	13.0
	(2.96) R4	9.5	25.5	24.5	23.5	12.6
	(2.97) R3	9.5	24.1	25.6	20.5	12.8
	(2.93) R2	9.2	24.3	25.6	22.6	13.3
(3.05) H31	9.8	23.5	30.3	16.7	11.1	
12 必要な収入や所得 が得られていると感 じますか	(2.48) R6	6.0	16.5	21.6	20.6	27.8
	(2.53) R5	6.7	18.0	20.4	20.7	27.1
	(2.57) R4	7.3	17.8	21.8	20.0	25.9
	(2.77) R3	9.0	19.4	22.7	16.3	20.6
	(2.56) R2	6.7	16.9	22.7	20.7	25.1
(2.65) H31	7.5	18.5	18.2	19.1	22.4	

「平均点の算出方法について」  
「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数（「わからない」、「不明（無回答）」を除く。）で除し、数値化したもの。

図4 【県民意識調査】分野別実感平均値の推移



③ 幸福を判断する際に重視する事項

(設問3-3：あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。)

幸福かどうか判断する際に重視すると回答した項目は、図5のとおりであり、前年までの調査結果と同様に、「健康状況」や「家族関係」が特に高い結果となっています。

図5 【県民意識調査】幸福を判断する際に重視する事項の回答状況

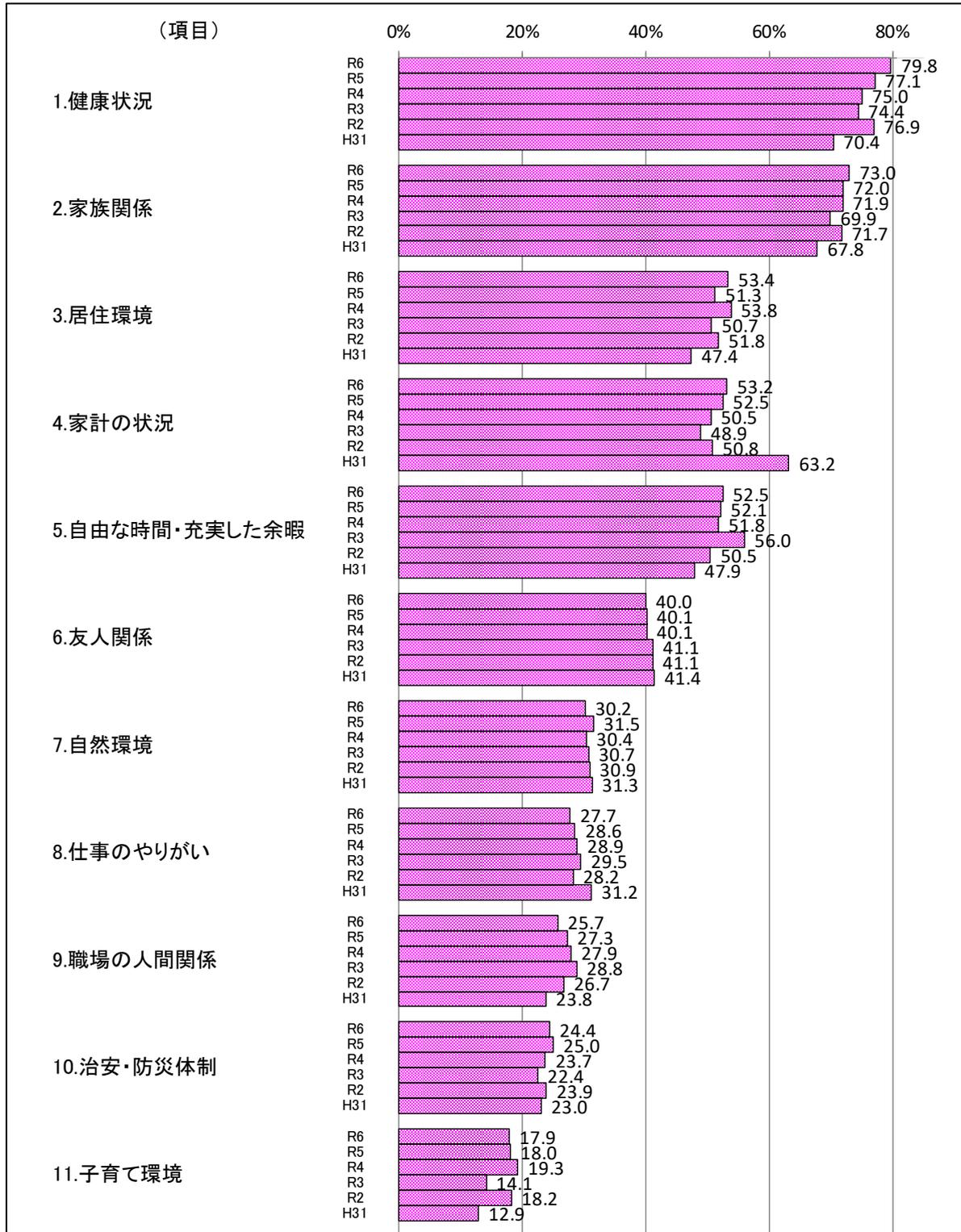
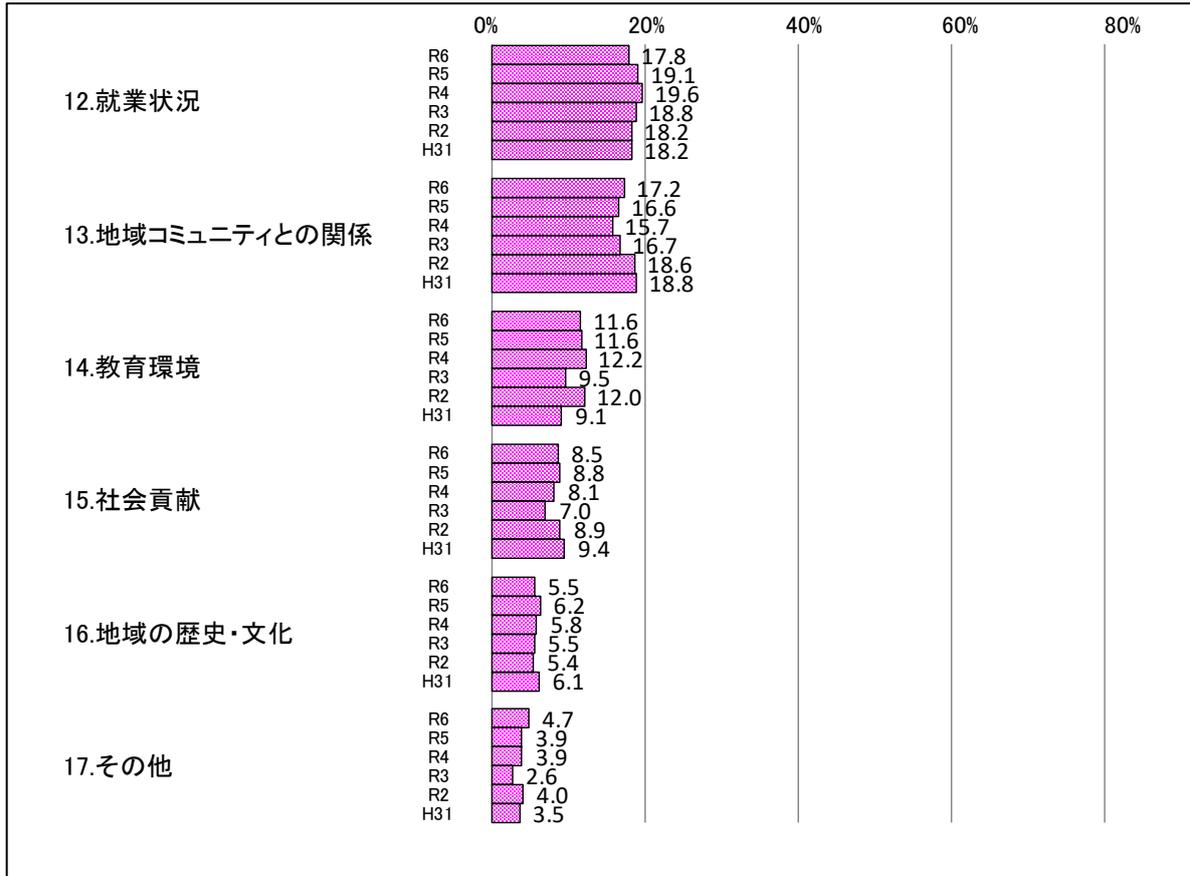


図5 【県民意識調査】幸福を判断する際に重視する事項の回答状況（続き）



④ 新型コロナウイルス感染症の影響について

（設問5：問3-1で回答した実感に係る新型コロナウイルス感染症のあなたへの影響について最も近いものを一つ選んでください。）

新型コロナウイルス感染症の影響についての分野別の回答結果は、図6のとおりであり、「こころの健康」や「必要な収入や所得」において、「あまりよくない影響を感じる」又は「よくない影響を感じる」と回答した人が多くなっていますが、いずれの分野においても、前年の調査に比べて「どちらともいえない」又は「影響を感じない」と回答した人が多くなっています。

図6 【県民意識調査】新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況

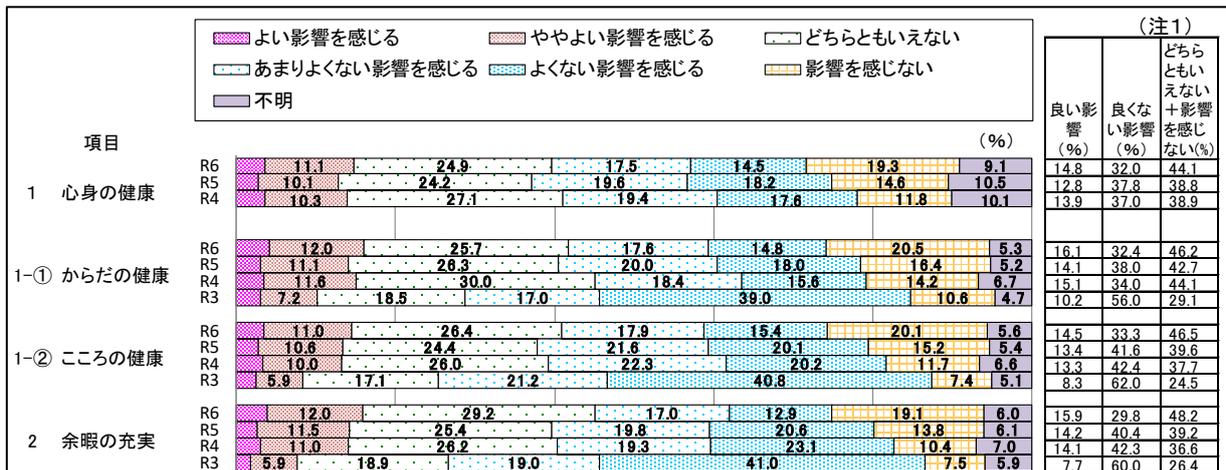


図6 【県民意識調査】新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況(続き)

3	家族関係	R6	8.4	17.7	28.2	10.0	8.0	24.8	4.9	26.1	16.0	53.0
		R5	7.9	16.6	29.5	11.0	9.0	20.7	5.2	24.5	20.1	50.2
		R4	8.2	16.2	32.0	11.6	9.1	16.9	6.0	24.4	20.6	48.9
		R3	4.9	8.2	25.0	16.5	26.6	13.5	5.3	13.1	43.0	38.5
4	子育て	R6	7.7	25.0	9.8	7.8	38.5	8.2	10.7	17.6	63.5	
		R5	7.1	22.7	12.2	12.0	34.6	4.2	10.0	24.2	57.3	
		R4	7.7	24.9	11.4	12.5	30.6	9.6	10.8	23.8	55.5	
		R3	17.2	13.5	28.3	25.7	10.5	4.9	41.8	42.9		
5	子どもの教育	R6	7.6	24.9	10.5	9.3	37.0	8.7	9.6	19.9	61.9	
		R5	6.6	22.2	13.0	14.3	33.1	8.7	8.7	27.4	55.2	
		R4	7.1	24.5	12.5	14.0	29.7	10.0	9.4	26.4	54.2	
		R3	16.3	15.3	29.9	23.8	10.5	4.2	45.2	40.1		
6	住まいの快適さ	R6	15.8	30.6	10.2	7.2	25.8	5.6	20.7	17.4	56.4	
		R5	13.9	31.6	13.0	7.6	23.4	5.7	18.7	20.6	55.0	
		R4	15.0	32.6	12.2	8.3	20.5	6.5	20.0	20.4	53.1	
		R3	7.1	28.3	16.1	22.7	16.7	6.2	9.9	38.8	45.0	
7	地域社会とのつながり	R6	10.4	33.0	16.2	11.7	21.4	5.4	12.2	27.9	54.5	
		R5	10.3	30.0	18.4	15.8	17.5	5.9	12.4	34.2	47.5	
		R4	10.6	32.4	17.0	16.4	15.0	6.4	12.9	33.4	47.3	
		R3	4.9	23.9	19.6	32.0	11.7	6.5	6.3	51.5	35.6	
8	お住まいの地域の安全	R6	14.8	34.3	9.4	7.1	25.1	5.5	18.7	16.4	59.3	
		R5	13.5	33.9	11.7	8.7	22.7	5.9	17.0	20.4	56.6	
		R4	15.4	35.4	10.7	9.2	18.8	6.2	19.7	19.9	54.2	
		R3	6.0	28.1	18.3	25.5	13.9	6.1	8.2	43.8	41.9	
9	仕事のやりがい	R6	8.9	29.2	12.4	9.3	30.2	7.0	12.0	21.7	59.3	
		R5	9.4	28.1	12.8	12.3	27.2	7.0	12.6	25.2	55.2	
		R4	8.9	30.2	12.8	13.1	23.8	7.8	12.3	26.0	54.0	
		R3	4.8	22.6	15.4	26.5	20.3	8.4	6.8	41.9	42.9	
10	必要な収入や所得	R6	6.5	25.1	16.9	17.6	26.1	6.0	8.3	34.5	51.2	
		R5	6.4	25.6	16.5	20.2	23.2	6.4	8.2	36.6	48.8	
		R4	6.3	26.8	17.9	18.7	21.6	6.7	8.3	36.6	48.4	
		R3	21.3	14.9	32.5	19.2	6.7	5.4	47.4	40.5		
11	歴史や文化への誇り	R6	7.0	36.6	6.3	4.1	38.1	5.9	8.9	10.4	74.8	
		R5	6.4	35.6	7.2	5.1	37.5	6.4	8.0	12.3	73.3	
		R4	6.9	37.1	7.6	6.0	33.4	6.7	9.1	13.6	70.5	
		R3	23.8	16.7	30.6	19.0	6.9	3.0	47.3	42.8		
12	自然のゆたかさ	R6	8.6	16.7	27.5	36.1	5.4	25.3	5.6	63.7		
		R5	8.4	14.9	26.2	36.0	5.6	23.3	6.9	64.2		
		R4	8.7	16.3	29.4	32.0	6.3	24.9	7.4	61.4		
		R3	5.6	26.9	15.2	23.4	20.0	6.5	7.9	38.7	46.9	

注1) 「良い影響」は「よい影響を感じる」+「ややよい影響を感じる」の合計、「良くない影響」は「よくない影響を感じる」+「あまりよくない影響を感じる」の合計

注2) 令和3年調査では、設問を「あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか。」とし、項目1「心身の健康」は調査せず、項目11は「歴史や文化に触れる機会や場所への影響」、項目12は「自然の恵みを感じる機会への影響」として調査しました。

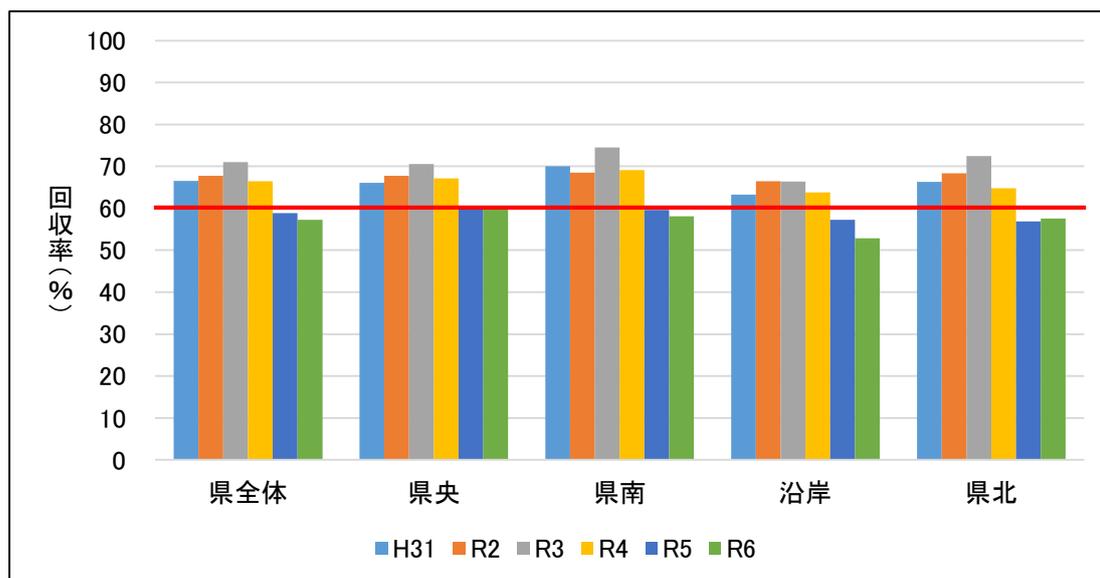
(注) 別途公表している県民意識調査結果は、回答者数の地域差を考慮し、居住人口に応じた係数を乗じて集計(母集団拡大集計)を行っていますが、当分析部会の分析データは単純集計結果を用いているため、分析結果は、既に公表されている県民意識調査結果と数値が異なる場合があります。

### 3.1.3 調査の回収率の推移

県民意識調査の県全体における回収率は、令和4年まで60%を超えていましたが、令和5年に60%を下回り、令和6年は57.2%となりました。また、いずれの広域振興圏においても、令和5年の回収率は令和4年に比べて6.6ポイントから9.5ポイントの低下が見られ、令和6年の回収率も令和4年の水準には回復していません(図7)。

回収率の低下が続く場合には、調査結果に影響が生じることも考えられることから、その推移に留意していきます。

図7 県民意識調査の回収率の推移  
(平成31年から令和6年、県全体及び広域振興圏別)



### 3.2 「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果

#### 3.2.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 県民計画を着実に推進していくため、県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと
- ② 調査対象 岩手県内に居住する18歳以上の個人
- ③ 対象者数 604人（各広域振興圏約150人）
- ④ 抽出方法 平成31年県民意識調査（県民計画の開始直前）の回答者のうち、補足調査に御協力いただける方から600人を抽出（令和5年まで固定）。  
令和6年に対象者の追加・更新等を行い、上記600人のうち調査継続に御同意いただいた448人に、令和5年県民意識調査（第2期政策推進プランの開始直前）の回答者のうち、補足調査に御協力いただける方から抽出した156人を追加（概ね各広域振興圏150人、各年代100人）。
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和6年1～2月（県民意識調査の実施と同時期）
- ⑦ 回収者数 587人
- ⑧ 有効回収率 97.2%
- ⑨ 回答者の属性

【男女別】	回答者数	割合
男性	291	(49.6)
女性	294	(50.1)
不明	2	(0.3)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	2	(0.3)
20～29歳	44	(7.5)
30～39歳	94	(16.0)
40～49歳	122	(20.8)
50～59歳	106	(18.1)
60～69歳	111	(18.9)
70歳以上	106	(18.1)
不明	2	(0.3)

【所得別】	回答者数	割合
100万円未満	110	(18.7)
100万円～300万円未満	270	(46.0)
300万円～500万円未満	139	(23.7)
500万円～700万円未満	37	(6.3)
700万円～1000万円未満	13	(2.2)
1000万円～1500万円未満	6	(1.0)
1500万円以上	1	(0.2)
不明	11	(1.9)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	167	(28.4)
県南広域振興圏	149	(25.4)
沿岸広域振興圏	145	(24.7)
県北広域振興圏	126	(21.5)

(注) 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。

( )内は%

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	41	(7.0)
家族従業者	13	(2.2)
会社役員・団体役員	37	(6.3)
常用雇用者	246	(41.9)
臨時雇用者	81	(13.8)
学生	8	(1.4)
専業主婦(主夫)	41	(7.0)
無職	90	(15.3)
その他	24	(4.1)
不明	6	(1.0)

【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	86	(14.7)
2人	196	(33.4)
3人	109	(18.6)
4人以上	21	(3.6)
子どもはいない	170	(29.0)
不明	5	(0.9)

【世帯構成別】	回答者数	割合
ひとり暮らし	61	(10.4)
夫婦のみ	127	(21.6)
2世代世帯	247	(42.1)
3世代世帯	86	(14.7)
その他	28	(4.8)
不明	38	(6.5)

【居住年数】	回答者数	割合
5年未満	5	(0.9)
5～10年未満	11	(1.9)
10～20年未満	18	(3.1)
20年以上	543	(92.5)
不明	10	(1.7)

### 3.2.2 調査結果の概要

補足調査で得られた分野別実感に対する回答を「感じる・やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない・感じない」の3つに区分し、「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」として選択された項目を回答の多い順に整理した結果、表4のとおりとなりました。

表4 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目〔実感別〕

分野	感じる・やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない・感じない
1-① からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ こころの健康状態	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 持病の有無 ウ 健康診断の結果	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 健康診断の結果
1-② こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 充実した余暇の有無(仕事・学業以外の趣味など) ウ からだの健康状態	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ からだの健康状態 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス)	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス)
2 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 家族との交流	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会
3 家族関係	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 家族が自分にもたらす精神的影響 ウ 同居の有無	ア 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 困った時に助け合えるかどうか
4 子育て	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) ウ 配偶者の家事への参加	ア 子育てにかかる費用 イ 子どもの教育にかかる費用 ウ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど)	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ 子どもに関する医療機関(小児科など)の充実
5 子どもの教育	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 不登校やいじめなどへの対応 ウ 学校の選択の幅(高校、大学など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 不登校やいじめなどへの対応 ウ 学力を育む教育内容
6 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) イ 公共交通機関の利便性 ウ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など)	ア 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など) イ 住宅の安全性(耐震、耐火、浸水対策など) ウ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) エ 公共交通機関の利便性
7 地域社会とのつながり	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア その地域で過ごした年数 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ 隣近所との面識・交流	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数
8 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど) イ 自然災害の発生状況 ウ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)	ア 交通事故の防止(歩道の整備など) イ 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど) ウ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など) エ その他
9 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 職場の人間関係 ウ 現在の収入・給料の額	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 職場の人間関係
10 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の金融資産の額
11 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域の食文化	ア その地域で過ごした年数 イ 地域のお祭り・伝統芸能 ウ 地域の歴史や文化に関心がない	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない イ 地域の歴史や文化に関心がない ウ その地域で過ごした年数
12 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い) ウ 公園・緑地、水辺などの周辺環境	ア 空気の状態(綺麗・汚い) イ 緑の量(豊か・少ない) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い) エ 公園・緑地、水辺などの周辺環境 オ 自然(山・海など)と触れ合う機会 カ 地域での自然保護活動 キ 自然に関心がない

令和5年県民意識調査回答時と令和6年補足調査回答時を比較し、実感に変動があった人の回答を「実感が上昇した人の回答」、「実感が横ばいの人の回答」、「実感が低下した人の回答」の3つに区分し、「分野別実感に対する回答理由と関連が強い要因」として選択された項目を回答が多い順に整理した結果、表5のとおりとなりました。

表5 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目  
〔令和5年から令和6年の実感の変化別〕

分 野	実感が上昇した人の回答	実感が横ばいの人の回答	実感が低下した人の回答
1-① からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ こころの健康状態	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 持病の有無 ウ 健康診断の結果	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 健康診断の結果 エ こころの健康状態
1-② こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 充実した余暇の有無(仕事・学業以外の趣味など) ウ 相談相手の有無	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 仕事・学業におけるストレスの有無 ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 エ からだの健康状態	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無
2 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 知人・友人との交流
3 家族関係	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 困った時に助け合えるかどうか ウ 同居の有無	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 同居の有無 エ 一緒にいる時間(長い・短い)
4 子育て	ア 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) イ 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) ウ 子育てにかかる費用	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 子育てにかかる費用 ウ 子ども教育にかかる費用	ア 子育てにかかる費用 イ 子ども教育にかかる費用 ウ 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)
5 子どもの教育	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など) エ 学校教育における地域学習	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 不登校やいじめなどへの対応 ウ 学力を育む教育内容
6 住まいの快適さ	ア 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などの距離など) イ 居住形態(持ち家か借家か) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 公共交通機関の利便性 イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などの距離など) ウ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など)
7 地域社会とのつながり	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ その地域で過ごした年数 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数
8 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど) イ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など) ウ 交通事故の防止(歩道の整備など)
9 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 就業形態(正規・非正規など) ウ 職場の人間関係	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 職場の人間関係	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 業種・業務の将来性
10 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 生活の程度 ウ 家族の収入・所得額(年金を含む)
11 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域の文化遺産・街並み エ 郷土の歴史的偉人	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域の食文化	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない イ その地域で過ごした年数 ウ 地域のお祭り・伝統芸能
12 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い) ウ 空気の状態(綺麗・汚い)

同様に、平成 31 年県民意識調査回答時と令和 6 年補足調査回答時を比較し、実感に変動があった人の回答を「実感が上昇した人の回答」、「実感が横ばいの人の回答」、「実感が低下した人の回答」の 3 つに区分し、「分野別実感に対する回答理由と関連が強い要因」として選択された項目を回答が多い順に整理した結果、表 6 のとおりとなりました。

表 6 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目  
〔平成 31 年から令和 6 年の実感の変化別〕

分 野	実感が上昇した人の回答	実感が横ばいの人の回答	実感が低下した人の回答
1-① からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ こころの健康状態	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 健康診断の結果	ア 持病の有無 イ 健康診断の結果 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) エ こころの健康状態
1-② こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ からだの健康状態 ウ 相談相手の有無	ア からだの健康状態 イ 仕事・学業におけるストレスの有無 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス)	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ からだの健康状態
2 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 知人・友人との交流	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 知人・友人との交流
3 家族関係	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 同居の有無 エ 一緒にいる時間(長い・短い)
4 子育て	ア 子育てにかかる費用 イ 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) ウ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) エ 配偶者の家事への参加 オ 子どもに関する医療機関(小児科など)の充実	ア 子育てにかかる費用 イ 子どもの教育にかかる費用 ウ 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など)	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ 子どもに関する医療機関(小児科など)の充実
5 子どもの教育	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 不登校やいじめなどへの対応	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 不登校やいじめなどへの対応 ウ 学力を育む教育内容
6 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 住宅の延床面積(広さ・狭さ) ウ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など)	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)
7 地域社会とのつながり	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ その地域で過ごした年数 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数
8 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 犯罪の発生状況 イ 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど) ウ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)
9 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 就業形態(正規・非正規など) エ 業務の量	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 職場の人間関係	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 職場の人間関係
10 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額
11 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域の食文化	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域での文化継承・保存活動	ア 地域の歴史や文化に関心がない イ 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない ウ その地域で過ごした年数
12 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 自然(山・海など)と触れ合う機会	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水などの状態(綺麗・汚い))	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 自然(山・海など)と触れ合う機会 ウ 水(河川、池、地下水などの状態(綺麗・汚い))

## 第4章 分析結果

### 4.1 分析方針等について

県民意識調査及び補足調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の視点、方法で整理しました。

#### 1 分析目的

##### (1) 主観的幸福感、分野別実感の概況の把握

県民意識の現状を把握するため、県民意識調査で得られた主観的幸福感や分野別実感の時系列変化と属性差を把握します。

##### (2) 分野別実感の変動要因の推測

県民意識の変化の状況を把握するため、令和5年（基準年）県民意識調査と令和6年県民意識調査、及び平成31年（計画開始年）県民意識調査と令和6年県民意識調査のそれぞれの調査期間の間で、有意な差が確認された分野別実感については、令和6年補足調査の結果を用いて、その要因を推測します。

##### (3) 分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性の把握とその要因の推測

分野別実感が一貫して高い又は低い属性を把握するため、平成28年から令和6年までの県民意識調査で得られた分野別実感で一貫して高値（平均値が毎年4点以上）又は低値（平均値が毎年3点未満）で推移している属性を把握するとともに、令和6年補足調査や過去の調査結果を用いて、その要因を推測します。

#### 2 分析対象

##### (1) 県民意識調査（詳細はP6参照）

県民意識の状況を把握するため、無作為に抽出した18歳以上の県民5,000人を対象に毎年実施し（調査対象は毎年異なる）、主観的幸福感や分野別実感などを調査しています。

##### (2) 県民意識調査（補足調査）（詳細はP14参照）

県民意識調査結果を補足するため、あらかじめ選定した約600人を対象に実施し、主観的幸福感、分野別実感に加え、分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目などを調査しています。

なお、原則として、対象者を固定して実施していますが、令和6年の調査に当たり、対象者の追加・更新等を行っています。

#### 3 分析方法

##### (1) 基準年又は調査開始年に対して実感が低下・上昇した要因分析について

###### ① 「時系列変化の有無」はt検定で検証

県民意識調査における時系列変化の有無は、2時点間（令和5年と令和6年、及び平成31年と令和6年）の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差があると判定されたものを、期間で差があると判断しました。

## ② 「属性差の有無」は一元配置分散分析で検証

令和6年県民意識調査における性別、年齢階層別等の各属性の区分（性別における男性及び女性、年齢階層別における20歳代、30歳代、40歳代等）間の差の有無は一元配置分散分析で検証し、5%水準で有意な差があると判定された属性を区分間で差があると判断しました。

当年次レポートでは、その中で最も値が高い区分と低い区分を記載しています。

なお、「(性別) その他」、「18～19歳」、「家族従業者」、「60歳未満の無職」、「(居住年数) 10年未満」はサンプル数が小さいため、分析対象からは除外しています。

## ③ 「分野別実感の変動要因」は県民意識調査や補足調査から推測

以下の2つの分析結果をもとに、分野別実感の変動要因を検討しました。

### ・ 分野別実感の変動に影響を与えた属性の回答項目から変動要因を検証

県民意識調査をもとに、分野別実感の変動に影響を与えたと判断される属性を把握し、さらに補足調査で当該属性の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、県民意識調査で当該分野別実感の低下が大きい属性を把握し、補足調査で当該属性の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、分野別実感の変動要因を検討しました。

### ・ 補足調査で得られた分野別実感の回答項目から変動要因を推測

補足調査で得られた分野別実感の回答項目を分野別実感の変化ごと（実感が上昇した人、実感が横ばいの人、実感が低下した人）の3区分に整理し、分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目の内容や各区分間の比較から、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、「実感が低下した人」の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目の内容を分析するとともに、「実感が横ばい、実感が上昇した人」の回答項目との比較を通じて、分野別実感の変動要因を検討しました。

なお、より実感の変化を適切に把握するため、実感が低下した場合は「感じる」から「やや感じる」に低下したものを、実感が上昇した場合は「感じない」から「あまり感じない」に上昇したものを、それぞれ分析対象から除外しています。

## (2) 「分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因」は、県民意識調査から属性を把握し、補足調査から要因を推測

平成28年から令和6年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性については、令和6年補足調査で当該属性の分野別実感が「感じる」「やや感じる」と回答した人の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、高値で推移している要因を推測しました。

また、一貫して低値（3点未満）で推移している属性については、令和6年補足調査で当該属性の分野別実感が「感じない」「あまり感じない」の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、低値で推移している要因を推測しました。

なお、一貫して高値又は低値で推移している要因の推測に当たっては、令和5年までの調査結果も参考にしました。

#### 4.1.1 調査結果の概要（県民意識調査から得られた分野別実感の平均値の状況）

県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値の状況について、令和5年（基準年）と令和6年を比較し、統計的に有意な差が確認された属性を表7に示しています。

表7 【県民意識調査】属性別平均値一覧表（令和5年調査と令和6年調査の差）

		主観的幸福感	心身の健康	余暇の充実	家族関係	子育て	
令和6年調査 平均値		3.51	3.22	3.02	3.88	3.03	
令和5年調査と令和6年調査の差	県計(2,861)	-	-	0.09	-	-	
	性別	男性(1,316)	-	-	-	-	-
		女性(1,510)	-	-	0.09	-	-
		その他(参考)(2)	/	/	/	/	/
	年代	18～19歳(参考)(20)	-	-	-	-	-
		20～29歳(123)	-	-	-	-	-
		30～39歳(210)	-	-	-	-	-
		40～49歳(371)	▲ 0.18	-	-	▲ 0.17	-
		50～59歳(479)	-	-	-	-	-
		60～69歳(638)	-	-	-	-	-
		70歳以上(1,008)	-	-	0.17	-	-
	職業	自営業主(237)	-	-	0.27	-	-
		家族従業員(参考)(81)	-	-	-	-	-
		会社役員・団体役員(178)	-	-	-	-	-
		常用雇用者(812)	-	-	-	-	-
		臨時雇用者(326)	-	-	-	-	-
		学生+その他(122)	-	-	-	-	-
		専業主婦・主夫(331)	-	-	-	-	-
		60歳未満の無職(参考)(57)	-	-	-	-	-
		60歳以上の無職(605)	-	-	0.20	-	-
	世帯構成	ひとり暮らし(374)	-	-	-	-	-
		夫婦のみ(645)	-	0.17	0.22	-	-
		2世代世帯(1,141)	-	-	-	-	-
		3世代世帯(348)	-	-	-	-	-
		その他(149)	-	-	-	-	-
	子どもの数	1人(376)	-	-	-	-	-
		2人(1,043)	0.11	0.15	0.15	-	-
		3人(562)	-	-	-	-	-
4人以上(111)		-	-	-	-	-	
子どもはいない(595)		-	-	-	-	-	
居住年数	10年未満(参考)(84)	-	-	-	▲ 0.40	-	
	10～20年未満(100)	-	-	-	-	-	
	20年以上(2,590)	-	-	0.11	-	-	
広域振興圏	県央(866)	-	-	-	-	-	
	県南(846)	-	-	-	-	-	
	沿岸(655)	-	-	-	-	-	
	県北(494)	-	-	-	-	-	

( ) は、R6 調査のサンプル数



同様に、平成31年（計画開始年）と令和6年を比較し、統計的に有意な差が確認された属性を表8に示しています。

表8 【県民意識調査】属性別平均値一覧表(平成31年調査と令和6年調査の差)

		主観的幸福感	心身の健康	余暇の充実	家族関係	子育て	
令和6年調査 平均値		3.51	3.22	3.02	3.88	3.03	
平成31年調査と令和6年調査の差	県計(2,861)	0.09	0.22	-	-	-	
	性別	男性(1,316)	-	0.21	-	-	-
		女性(1,510)	0.08	0.21	-	-	-
		その他(参考)(2)					
	年代	18～19歳(参考)(20)	-	-	-	-	-
		20～29歳(123)	-	0.39	-	-	-
		30～39歳(210)	-	0.35	-	-	▲ 0.43
		40～49歳(371)	-	0.18	-	-	▲ 0.22
		50～59歳(479)	0.17	0.24	-	-	-
		60～69歳(638)	-	0.17	-	-	-
		70歳以上(1,008)	-	0.18	▲ 0.20	-	-
	職業	自営業主(237)	-	-	-	-	-
		家族従業員(参考)(81)	-	-	-	-	-
		会社役員・団体役員(178)	-	0.25	-	0.24	-
		常用雇用者(812)	-	0.29	-	-	▲ 0.15
		臨時雇用者(326)	-	0.20	-	-	-
		学生+その他(122)	-	-	-	-	-
		専業主婦・主夫(331)	-	0.23	-	-	-
		60歳未満の無職(参考)(57)	-	-	-	-	-
		60歳以上の無職(605)	-	0.23	▲ 0.17	-	-
	世帯構成	ひとり暮らし(374)	-	-	-	-	-
		夫婦のみ(645)	0.18	0.28	-	0.13	-
		2世代世帯(1,141)	-	0.21	-	-	▲ 0.15
		3世代世帯(348)	-	0.20	-	-	-
		その他(149)	-	0.26	-	-	-
	子どもの数	1人(376)	-	-	-	-	-
		2人(1,043)	0.11	0.17	-	-	-
		3人(562)	-	0.27	-	0.14	-
4人以上(111)		0.34	0.49	-	-	-	
子どもはいない(595)		-	0.23	-	-	-	
居住年数	10年未満(参考)(84)	-	-	-	-	-	
	10～20年未満(100)	-	-	-	-	-	
	20年以上(2,590)	0.08	0.23	-	-	-	
広域振興圏	県央(866)	-	0.15	-	-	-	
	県南(846)	0.19	0.33	-	-	-	
	沿岸(655)	-	-	-	-	-	
	県北(494)	-	0.24	-	-	-	

( ) は、R6 調査のサンプル数

■ :上昇、□ :横ばい、■ :低下

子どもの教育	住まいの快適さ	地域社会とのつながり	地域の安全	仕事のやりがい	必要な収入や所得	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ
3.13	3.31	3.10	3.66	3.39	2.48	3.28	4.21
-	-	▲ 0.25	▲ 0.16	▲ 0.15	▲ 0.16	-	-
-	-	▲ 0.29	▲ 0.15	▲ 0.13	▲ 0.18	-	-
-	-	▲ 0.21	▲ 0.17	▲ 0.17	▲ 0.15	-	-
/	/	/	/	/	/	/	/
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.39	-	▲ 0.25	-	0.24	-
▲ 0.18	-	▲ 0.38	▲ 0.21	▲ 0.19	▲ 0.26	-	-
-	-	▲ 0.31	▲ 0.19	-	-	0.15	-
0.13	-	▲ 0.24	▲ 0.17	-	-	-	-
-	▲ 0.11	▲ 0.27	▲ 0.18	▲ 0.31	▲ 0.23	▲ 0.15	-
-	-	-	-	-	▲ 0.31	-	-
-	-	-	▲ 0.45	-	▲ 0.81	-	-
-	-	▲ 0.23	▲ 0.21	-	-	-	-
-	-	▲ 0.31	▲ 0.18	-	▲ 0.20	0.15	-
-	-	▲ 0.24	-	-	▲ 0.26	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.59	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.33	▲ 0.18	-	-	-	-
-	-	▲ 0.28	▲ 0.18	-	-	-	-
-	-	▲ 0.22	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.25	▲ 0.14	▲ 0.14	▲ 0.21	-	-
-	-	▲ 0.32	▲ 0.24	▲ 0.29	▲ 0.28	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	▲ 0.17	▲ 0.37	▲ 0.26	▲ 0.21	▲ 0.42	-	-
-	-	▲ 0.23	▲ 0.17	▲ 0.11	▲ 0.17	-	-
-	-	▲ 0.20	▲ 0.13	▲ 0.28	▲ 0.16	-	-
-	-	▲ 0.29	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.20	-	-	-	-	0.11
-	-	▲ 0.55	-	▲ 0.46	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.24	▲ 0.16	▲ 0.14	▲ 0.18	-	-
-	-	▲ 0.22	▲ 0.14	▲ 0.20	▲ 0.18	0.13	-
-	-	▲ 0.28	▲ 0.14	-	-	-	-
-	-	▲ 0.30	▲ 0.24	▲ 0.21	▲ 0.33	-	-
-	-	▲ 0.16	▲ 0.16	-	-	-	-

次に、県民意識調査において分野別実感の調査を始めた平成28年から令和6年までにおいて、実感平均値が一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性を表9に示しています。

表9【県民意識調査】属性別平均値一覧表（調査開始年から令和6年まで一貫して高値又は低値で推移している属性）

		余暇の充実	家族関係	子育て	子どもの教育	必要な収入や所得	自然のゆたかさ
県計(2,861)						2.44～2.77	4.16～4.27
性別	男性(1,316)					2.46～2.75	4.13～4.25
	女性(1,510)					2.43～2.79	4.18～4.29
	その他(参考)(2)						
年代	18～19歳(参考)(20)						
	20～29歳(123)					2.30～2.68	4.20～4.37
	30～39歳(210)					2.27～2.71	4.22～4.37
	40～49歳(371)	2.82～2.88				2.40～2.82	4.16～4.42
	50～59歳(479)	2.68～2.92				2.46～2.75	4.24～4.38
	60～69歳(638)					2.37～2.77	4.09～4.24
	70歳以上(1,008)					2.45～2.80	4.08～4.20
職業	自営業主(237)					2.53～2.86	4.19～4.32
	家族従業員(参考)(81)						
	会社役員・団体役員(178)						4.20～4.32
	常用雇用者(812)	2.82～2.95				2.52～2.86	4.21～4.33
	臨時雇用者(326)					2.20～2.65	4.13～4.36
	学生+その他(122)					2.49～2.94	4.09～4.59
	専業主婦・主夫(331)					2.34～2.89	4.15～4.29
	60歳未満の無職(参考)(57)						
	60歳以上の無職(605)					2.25～2.46	4.02～4.09
世帯構成	ひとり暮らし(374)					2.49～2.75	4.07～4.22
	夫婦のみ(645)		4.00～4.15			2.43～2.92	4.10～4.28
	2世代世帯(1,141)	2.80～2.98				2.40～2.71	4.16～4.29
	3世代世帯(348)					2.45～2.82	4.27～4.44
	その他(149)						
子どもの数	1人(376)					2.28～2.78	4.12～4.28
	2人(1,043)					2.48～2.86	4.16～4.25
	3人(562)					2.48～2.83	4.16～4.30
	4人以上(111)					2.31～2.86	4.18～4.32
	子どもはいない(595)	2.84～2.97		2.60～2.87	2.80～2.98	2.37～2.59	4.14～4.30
居住年数	10年未満(参考)(84)						
	10～20年未満(100)						4.21～4.42
	20年以上(2,590)					2.42～2.75	4.15～4.27
広域振興圏	県央(866)					2.47～2.87	4.16～4.28
	県南(846)					2.39～2.70	4.11～4.26
	沿岸(655)					2.38～2.76	4.13～4.26
	県北(494)					2.34～2.76	4.22～4.37

※（ ）は、R6調査のサンプル数

## 4.2 主観的幸福感について

### ① 主観的幸福感の推移（P 7 図 1 及び図 2 参照）

令和 6 年県民意識調査結果に、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の 5 段階の選択肢に応じて 5 点から 1 点を配点したところ、県全体の実感平均値は 3.51 点となり、基準年（令和 5 年）より 0.02 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、主観的幸福感、基準年に比べて横ばいと考えられます。

同様に、計画開始年（平成 31 年）と比較すると 0.09 点上昇しており、t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に上昇していることから、主観的幸福感、計画開始年に比べて上昇していると考えられます。

また、「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」と回答した人の割合は、県全体で 58.5% となり、基準年より 1.6 ポイントの上昇、計画開始年より 6.2 ポイントの上昇であり、「あまり幸福だと感じていない」又は「幸福だと感じていない」と回答した人の割合は、県全体で 17.3% となり、基準年より 0.2 ポイントの上昇、計画開始年より 2.0 ポイントの低下でした。

### ② 属性別の状況

#### ア 令和 6 年県民意識調査における属性別平均値の状況（P 27 図 8 参照）

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「40～49 歳」が低く、「20～29 歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60 歳以上の無職」が低く、「専業主婦・主夫」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「4 人以上」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

#### イ 令和 6 年と基準年調査結果との比較

有意に変化した属性は表 10 のとおりでした。

表 10 主観的幸福感において基準年と比較して有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R6	R6-R5 <sup>※1</sup> (対基準年差)
県計		3.49	3.51	0.02 <sup>※2</sup>
年代	40～49 歳	3.52	3.33	▲ 0.18
子どもの数	2 人	3.56	3.67	0.11

※1 四捨五入の関係から R6 と R5 の差が一致しない場合があります。

※2 県計の有意な変化はありません。

ウ 令和6年と計画開始年調査結果との比較

有意に変化した属性は表11のとおりでした。

表11 主観的幸福感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と基準年差

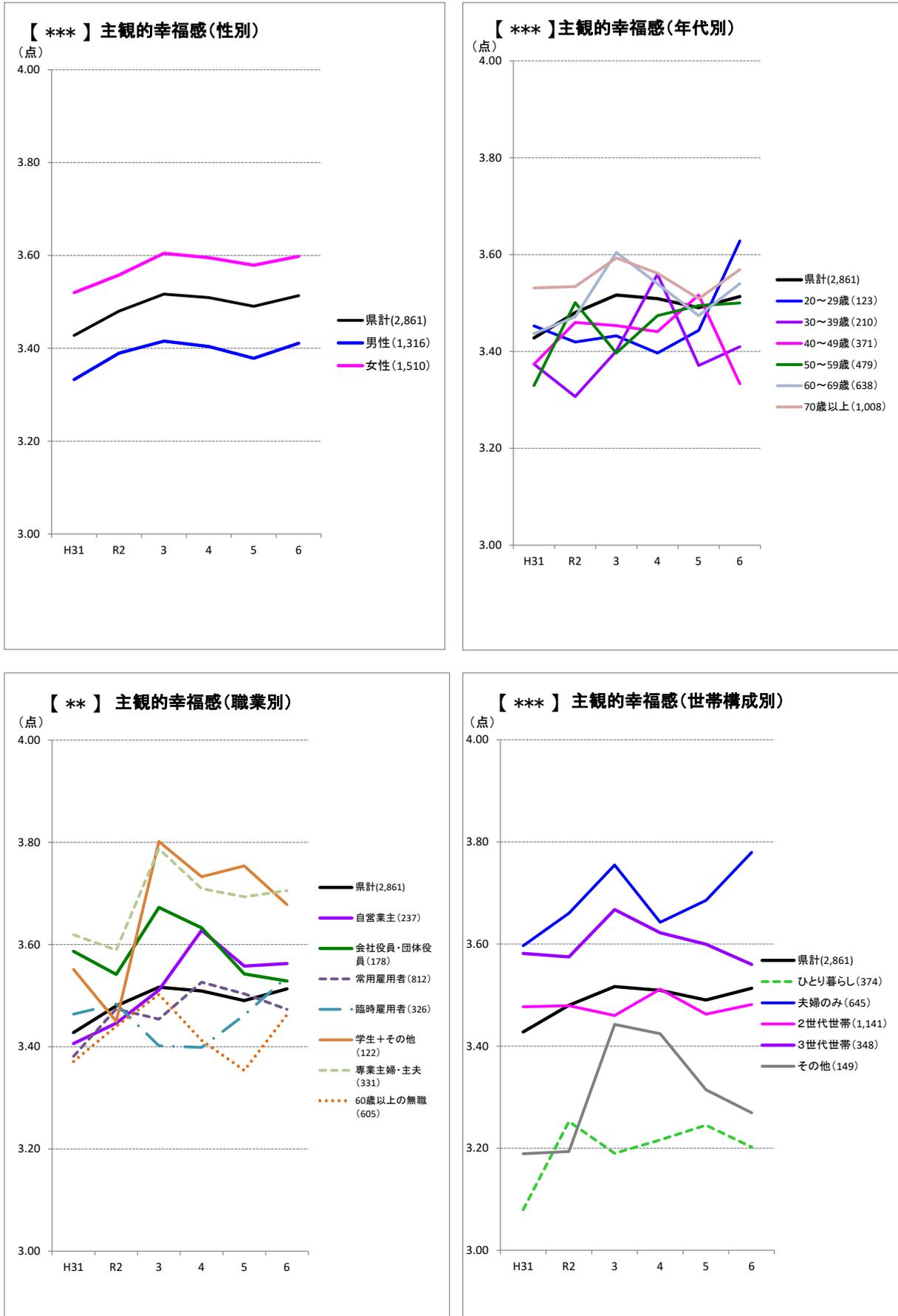
属性		H31	R6	R6-H31 <sup>※</sup> (対計画開始年差)
県計		3.43	3.51	0.09
性別	女性	3.52	3.60	0.08
年代	50～59歳	3.33	3.50	0.17
世帯構成	夫婦のみ	3.60	3.78	0.18
子どもの数	2人	3.56	3.67	0.11
	4人以上	3.37	3.71	0.34
居住年数	20年以上	3.42	3.51	0.08
広域振興圏	県南広域振興圏	3.31	3.50	0.19

※ 四捨五入の関係からR6とH31の差が一致しない場合があります。

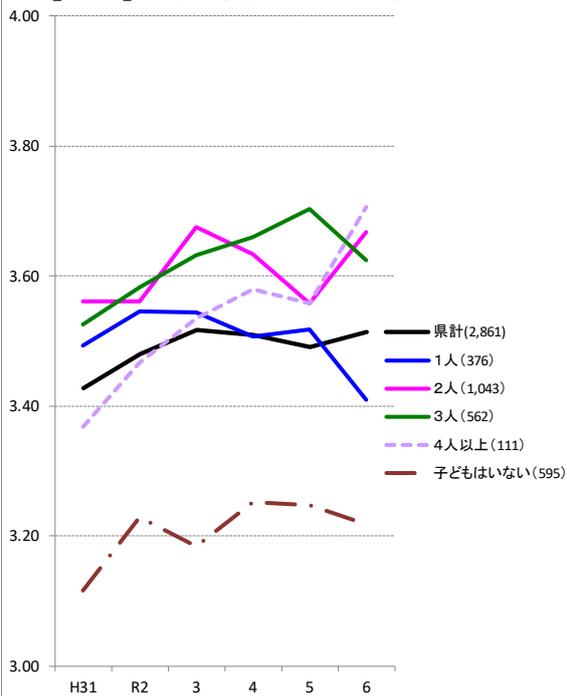
③ 幸福感を判断する上で重視された項目（P10 図5 参照）

令和6年県民意識調査において、回答した人が幸福感を判断する上で重視した項目については、平成28年以降継続して1位が「健康状況」、2位が「家族関係」でした。

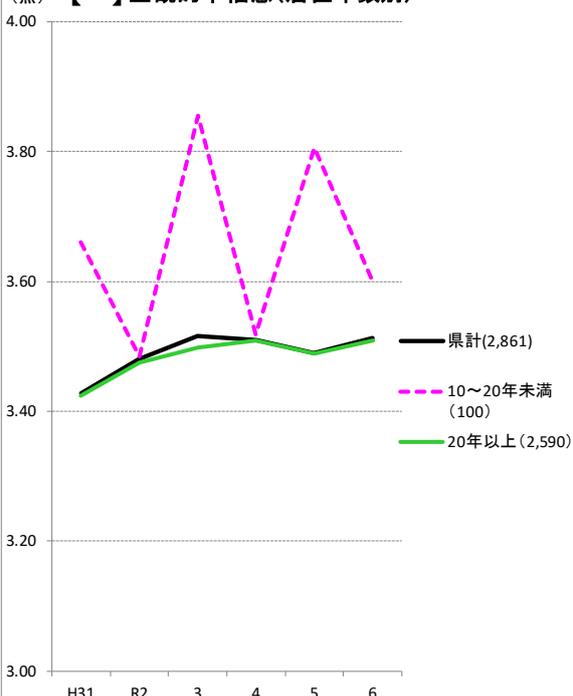
図8 主観的幸福感の属性別集計結果



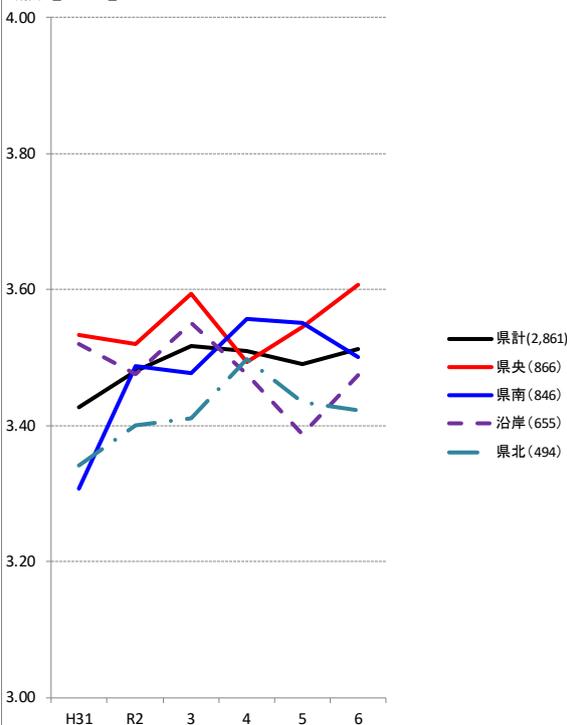
(点) 【\*\*\*】主観的幸福感(子どもの数別)



(点) 【一】主観的幸福感(居住年数別)



(点) 【\*\*】主観的幸福感(広域圏別)



「主観的幸福感について」

主観的幸福感の実感平均値の算出方法

「幸福だと感じている」を5点、「やや幸福だと感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり幸福だと感じていない」を2点、「幸福だと感じていない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化しています。

■凡例■

グラフ左上の\*は、R6調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示しています。

【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)

【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)

【\*】10%水準で差が有意

【-】差が認められない

注) R6のサンプル数が100人未満である以下の属性を分析対象から除外しています。

- ・性別の「その他」
- ・年代別の「18~19歳」
- ・職業別の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・居住年数別「10年未満」

#### 4.3 基準年（令和5年）と比較した分野別実感の分析について

令和6年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値は表12のとおりであり、基準年と比較し、1分野で上昇、11分野で横ばいとなりました。

表12 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（基準年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移					
		H31	R2	R3	R4	R5 (基準年)	R6 (当該年)
Ⅰ健康・余暇	(1)心身の健康	3.00	3.15	3.07	3.20	3.18	3.22 - (0.05)
	(2)余暇の充実	3.05	2.93	2.97	2.96	2.93	3.02 ↑ (0.09)
Ⅱ家族・子育て	(3)家族関係	3.84	3.86	3.85	3.91	3.91	3.88 - (△0.03)
	(4)子育て	3.08	3.07	3.16	3.16	3.06	3.03 - (△0.03)
Ⅲ教育	(5)子どもの教育	3.10	3.09	3.20	3.18	3.14	3.13 - (△0.01)
Ⅳ居住環境・コミュニティ	(6)住まいの快適さ	3.34	3.29	3.31	3.31	3.29	3.31 - (0.02)
	(7)地域社会とのつながり	3.35	3.16	3.09	3.10	3.07	3.10 - (0.03)
Ⅴ安全	(8)地域の安全	3.82	3.66	3.76	3.72	3.69	3.66 - (△0.03)
Ⅵ仕事・収入	(9)仕事のやりがい	3.54	3.38	3.49	3.41	3.39	3.39 - (0.00)
	(10)必要な収入や所得	2.65	2.56	2.77	2.57	2.53	2.48 - (△0.05)
Ⅶ歴史・文化	(11)歴史・文化への誇り	3.28	3.25	3.18	3.27	3.23	3.28 - (0.06)
Ⅷ自然環境	(12)自然のゆたかさ	4.21	4.16	4.18	4.23	4.21	4.21 - (0.00)

(注) ① ( ) は基準年調査との差。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できた分野は、網掛けと矢印で表記しています。

#### 4.3.1 基準年と比較して実感が上昇した分野

##### (1) 「余暇の充実」の実感

###### ① 分野別実感の概況

###### ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.02点であり、基準年より0.09点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

###### イ 属性別の状況

###### (ア) 令和6年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代別では、「30～39歳」が低く、「20～29歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「会社役員・団体役員」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「1人」が低く、「4人以上」が高くなりました。

###### (イ) 令和6年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表13のとおりでした。

表13 「余暇の充実」の実感において基準年と比較して有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R6	R6-R5 <sup>※</sup> (対基準年差)
県計		2.93	3.02	0.09
性別	女性	2.95	3.04	0.09
年代	70歳以上	2.98	3.16	0.17
職業	自営業主	2.81	3.08	0.27
	60歳以上の無職	2.89	3.09	0.20
世帯構成	夫婦のみ	3.00	3.23	0.22
子どもの数	2人	2.93	3.08	0.15
居住年数	20年以上	2.91	3.02	0.11

※ 四捨五入の関係からR6とR5の差が一致しない場合があります。以降の各分野においても同様です。

###### ② 基準年と比較して分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表13のとおりであり、特に、職業別「自営業主」及び「60歳以上の無職」、世帯構成別「夫婦のみ世帯」で上昇幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が上昇した人が選択した上位3位の項目は、以下のとおりでした。
  - 自由な時間の確保
  - 家族との交流
  - 趣味・娯楽活動の場所・機会
- ・ 令和6年県民意識調査の生活時間のうち、仕事時間は263分であり、令和5年の270分から7分の減少となっており、また、余暇時間は398分であり、令和5年の389分から9分の増加となりました。
- ・ 補足調査結果において、実感が上昇した人と実感が低下した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位3項目以外を比較すると、「文化・芸術の

鑑賞」及び「知人・友人との交流」において、実感が低下した人の回答が少ない一方で、実感が上昇した人で回答が多いことから、当該理由も実感が上昇した要因の一つと推測されます。

- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「自由な時間を十分に確保できたこと」、「家族との交流が増えたこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が増えたこと」、「文化・芸術の鑑賞機会が増えたこと」及び「知人・友人との交流が増えたこと」であると推測されます（表 14）。

表 14 「余暇の充実」の実感が基準年と比較して上昇した要因とその具体的な内容

実感が上昇した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
自由な時間を十分に確保できたこと	自由に使える時間が増えた、土日が休日で色々なことが出来るなど
家族との交流が増えたこと	家族との時間が取れるようになった、親子で共通の趣味など
趣味・娯楽活動の場所・機会が増えたこと	読書、友人と温泉など
文化・芸術の鑑賞機会が増えたこと	音楽や映画等楽しむ機会、友人との映画や演奏会など
知人・友人との交流が増えたこと	友達と共通の趣味を楽しんでいるなど

### ③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 28 年から令和 6 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は表 15 のとおり 5 属性でした。
- ・ 一貫して低値（3 点未満）で推移している 5 属性において、令和 6 年の補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位 3 位の項目は、属性により異なりますが、全 5 属性において「自由な時間の確保」が、年代別「50～59 歳」を除く 4 属性において「趣味・娯楽活動の場所・機会」が、年代別「40～49 歳」を除く 4 属性において「知人・友人との交流」が、上位 3 位に含まれていました。
- ・ これらの 5 属性において、令和 5 年までに過去 2 回以上実感が低い要因として推測されたものは、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」及び「知人・友人との交流が少ないこと」でした。
- ・ 以上のことから、当該 5 属性において低値で推移している要因は、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」及び「知人・友人との交流が少ないこと」であると推測されます。

表 15 「余暇の充実」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
年代	40～49 歳	2.88	2.82	2.88	2.87	2.88	2.83	2.83	2.88	2.88
	50～59 歳	2.68	2.85	2.79	2.92	2.78	2.70	2.81	2.80	2.92
職業別	常用雇用者	2.82	2.87	2.82	2.89	2.85	2.86	2.84	2.90	2.95
世帯構成	2 世代世帯	2.80	2.98	2.94	2.97	2.84	2.92	2.93	2.90	2.94
子どもの数	子どもはいない	2.84	2.92	2.97	2.92	2.91	2.91	2.88	2.94	2.94

## 4.3.2 基準年と比較して実感が横ばいの分野

### (1) 「心身の健康」の実感

#### ① 分野別実感の概況

##### ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.22点であり、基準年より0.05点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

##### イ 属性別の状況

###### (ア) 令和6年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代別では、「40～49歳」が低く、「20～29歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60歳以上の無職」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「4人以上」が高くなりました。

###### (イ) 令和6年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表16のとおりでした。

表16 「心身の健康」の実感において基準年と比較して有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R6	R6-R5 (対基準年差)
県計		3.18	3.22	0.05*
世帯構成	夫婦のみ	3.24	3.40	0.17
子どもの数	2人	3.15	3.30	0.15

※ 県計の有意な変化はありません。

#### ② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

### (2) 「家族関係」の実感

#### ① 分野別実感の概況

##### ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.88点であり、基準年より0.03点低下しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

##### イ 属性別の状況

###### (ア) 令和6年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代別では、「40～49歳」が低く、「20～29歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「自営業主」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。

(イ) 令和6年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表17のとおりでした。

表17 「家族関係」の実感において基準年と比較して有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R6	R6-R5 (対基準年差)
県計		3.91	3.88	▲ 0.03*
年代	40～49歳	3.93	3.76	▲ 0.17

※ 県計の有意な変化はありません。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- 平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性は表18のとおりであり、低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。
- 世帯別「夫婦のみ世帯」の属性については、令和6年補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「感じる・やや感じる」と回答した人が選択した上位3位の項目は、「会話の頻度(多い・少ない)」、「同居の有無」及び「困った時に助けあえるかどうか」でした。
- 世帯別「夫婦のみ世帯」の属性において、令和5年までに、過去2回以上実感が高い要因として推測されたものは、「会話の頻度が多いこと」、「同居がうまくいっていること」、「困ったときに助け合えていること」及び「家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしていること」でした。
- 以上のことから、世帯別「夫婦のみ世帯」の属性において高値で推移している要因は、「会話の頻度が多いこと」、「同居がうまくいっていること」、「困ったときに助け合えていること」及び「家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしていること」であると推測されます。

表18 「家族関係」の実感において高値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
世帯構成	夫婦のみ	4.05	4.00	4.04	4.02	4.03	4.02	4.10	4.09	4.15

(3) 「子育て」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.03点であり、基準年より0.03点低下しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和6年県民意識調査における属性別平均点の状況

- 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- 年代別では、「30～39歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- 職業別では、「常用雇用者」が低く、「専業主婦・主夫」が高くなりました。
- 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。

#### (イ) 令和6年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

#### ② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- 平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は、子どもの数別「子どもはいない」でした（表19）。
- 子どもの数別「子どもはいない」の属性については、令和6年補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目は、「子どもの教育にかかる費用」、「子育てにかかる費用」、「子どもを預けられる人の有無（親・親戚など）」、「子どもに関する医療機関（小児科など）の充実」、「子どもの遊び場（公園など）の充実」及び「子どもの習い事の実施の幅」でした。
- 子どもの数別「子どもはいない」の属性において、令和5年までに過去2回以上実感が低い要因として推測されたものは、「子どもの教育にかかる費用が高いこと」、「子育てにかかる費用が高いこと」、「自分の就業状況（労働時間、休養・休暇など）に不満があること」及び「子育て支援サービスの内容が十分とは言えないこと」でした。
- 以上のことから、子どもの数別「子どもはいない」の属性において低値で推移している要因は、「子どもの教育にかかる費用が高いこと」、「子育てにかかる費用が高いこと」、「自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）に不満があること」及び「子育てサービス支援の内容が十分とは言えないこと」であると推測されます。

表19 「子育て」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
子どもの数	子どもはいない	2.61	2.73	2.63	2.60	2.72	2.83	2.87	2.70	2.71

#### (4) 「子どもの教育」の実感

##### ① 分野別実感の概況

###### ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.13点であり、基準年より0.01点低下しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

###### イ 属性別の状況

###### (ア) 令和6年県民意識調査における属性別平均点の状況

- 年代別では、「40～49歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- 職業別では、「常用雇用者」が低く、「自営業主」が高くなりました。
- 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3人」が高くなりました。

###### (イ) 令和6年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較し有意に変化した属性はありませんでした。

#### ② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- 平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は、子どもの数別「子どもはいない」でした（表20）。
- 子どもの数別「子どもはいない」の属性については、令和6年補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感

じない」と回答した人が選択した上位3位の項目は、「不登校やいじめなどへの対応」、「人間性、社会性を育むための教育内容」及び「学力を育む教育内容」でした。

- ・ 子どもの数別「子どもはいない」の属性において、令和5年までに過去2回以上実感が低い要因として推測されたものは、「学力を育む教育内容が十分とは言えないこと」、「人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと」及び「不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと」でした。
- ・ 以上のことから、子どもの数別「子どもはいない」の属性において低値で推移している要因は、「人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと」、「不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと」及び「学力を育む教育内容が十分とは言えないこと」であると推測されます。

表 20 「子どもの教育」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
子どもの数	子どもはいない	2.96	2.94	2.92	2.84	2.80	2.98	2.96	2.88	2.93

## (5) 「住まいの快適さ」の実感

### ① 分野別実感の概況

#### ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.31点であり、基準年より0.02点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

#### イ 属性別の状況

##### (ア) 令和6年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代別では、「50～59歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「1人」が低く、「2人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

##### (イ) 令和6年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表21のとおりでした。

表 21 「住まいの快適さ」の実感において基準年と比較して有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R6	R6-R5 (対基準年差)
県計		3.29	3.31	0.02*
子どもの数	4人以上	3.05	3.39	0.35

※ 県計の有意な変化はありません。

### ② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

## (6) 「地域社会とのつながり」の実感

### ① 分野別実感の概況

#### ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.10 点であり、基準年より 0.03 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

#### イ 属性別の状況

##### (ア) 令和 6 年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代別では、「30～39 歳」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「自営業主」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「3 世代世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3 人」が高くなりました。

##### (イ) 令和 6 年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表 22 のとおりでした。

表 22 「地域社会とのつながり」の実感において基準年と比較して有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R6	R6-R5 (対基準年差)
県計		3.07	3.10	0.03*
年代	20～29 歳	2.67	3.03	0.35

※ 県計の有意な変化はありません。

### ② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 6 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

## (7) 「地域の安全」の実感

### ① 分野別実感の概況

#### ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.66 点であり、基準年より 0.03 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

#### イ 属性別の状況

##### (ア) 令和 6 年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「沿岸広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

##### (イ) 令和 6 年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表 23 のとおりでした。

表 23 「地域の安全」の実感において基準年と比較して有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R6	R6-R5 (対基準年差)
県計		3.69	3.66	▲ 0.03*
広域振興圏	県南広域振興圏	3.75	3.65	▲ 0.11

※ 県計の有意な変化はありません。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 6 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(8) 「仕事のやりがい」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.39 点であり、基準年と同点でした。

t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和 6 年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代別では、「30～39 歳」が低く、「60～69 歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「専業主婦・主夫」が低く、「自営業主」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「4 人以上」が高くなりました。

(イ) 令和 6 年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 6 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(9) 「必要な収入や所得」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 2.48 点であり、基準年より 0.05 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和 6 年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「会社役員・団体役員」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「1 人」が低く、「4 人以上」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「沿岸広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

(イ) 令和6年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- 平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は表24のとおりでした。
- 職業別「会社役員・団体役員」及び居住年数別「10～20年未満」を除く属性において、一貫して低値で推移しており、本分野について、令和6年補足調査の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」として選択された項目において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目は、「自分の収入・所得額（年金を含む）」、「家族の収入・所得額（年金を含む）」、「自分の金融資産の額」でした。
- 本分野において、令和5年までに過去2回以上実感が低い要因として推測されたものは、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「自分の金融資産の額が十分とは言えないこと」及び「自分の収入に比べて支出が多いこと、あるいは十分な支出ができないこと」でした。
- 以上のことから、本分野において低値で推移している要因は、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「自分の金融資産の額が十分とは言えないこと」及び「自分の収入に比べて支出額が多いこと、あるいは十分な支出ができないこと」であると推測されます。

表24 「必要な収入や所得」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
県計		2.44	2.58	2.45	2.65	2.56	2.77	2.57	2.53	2.48
性別	男性	2.46	2.60	2.47	2.68	2.55	2.75	2.55	2.50	2.50
	女性	2.43	2.56	2.43	2.61	2.58	2.79	2.59	2.55	2.47
年代	20～29歳	2.48	2.51	2.44	2.66	2.49	2.68	2.40	2.30	2.47
	30～39歳	2.44	2.47	2.42	2.51	2.36	2.71	2.50	2.47	2.27
	40～49歳	2.51	2.56	2.52	2.66	2.50	2.82	2.62	2.57	2.40
	50～59歳	2.46	2.52	2.49	2.60	2.52	2.75	2.58	2.53	2.49
	60～69歳	2.37	2.57	2.40	2.63	2.59	2.77	2.54	2.55	2.53
	70歳以上	2.46	2.70	2.45	2.75	2.65	2.80	2.61	2.55	2.52
職業別	自営業主	2.53	2.69	2.58	2.86	2.63	2.86	2.62	2.57	2.54
	常用雇用者	2.58	2.66	2.55	2.72	2.60	2.86	2.67	2.60	2.52
	臨時雇用者	2.20	2.31	2.30	2.56	2.39	2.65	2.38	2.40	2.30
	学生+その他	2.49	2.73	2.63	2.80	2.55	2.94	2.80	2.78	2.81
	専業主婦・主夫	2.37	2.48	2.34	2.46	2.67	2.89	2.61	2.58	2.51
	60歳以上の無職	2.25	2.46	2.29	2.37	2.46	2.42	2.41	2.33	2.40
世帯構成	ひとり暮らし	2.52	2.65	2.53	2.65	2.57	2.75	2.49	2.55	2.53
	夫婦のみ	2.59	2.72	2.43	2.76	2.68	2.92	2.63	2.59	2.64
	2世代世帯	2.41	2.54	2.51	2.62	2.54	2.71	2.56	2.50	2.40
	3世代世帯	2.49	2.56	2.52	2.72	2.55	2.82	2.62	2.54	2.45

表 24 「必要な収入や所得」の実感において低値で推移している属性（続き）

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
子どもの数	1人	2.41	2.52	2.48	2.70	2.53	2.78	2.61	2.38	2.28
	2人	2.48	2.61	2.49	2.71	2.62	2.86	2.58	2.62	2.53
	3人	2.52	2.70	2.48	2.69	2.59	2.83	2.67	2.65	2.53
	4人以上	2.36	2.54	2.31	2.48	2.58	2.86	2.56	2.54	2.65
	子どもはいない	2.37	2.44	2.40	2.53	2.42	2.59	2.46	2.38	2.44
居住年数	20年以上	2.42	2.57	2.44	2.66	2.54	2.75	2.56	2.53	2.48
広域振興圏	県央広域振興圏	2.47	2.59	2.50	2.73	2.62	2.87	2.63	2.64	2.55
	県南広域振興圏	2.39	2.53	2.42	2.54	2.58	2.70	2.54	2.53	2.46
	沿岸広域振興圏	2.52	2.63	2.51	2.71	2.53	2.76	2.53	2.41	2.38
	県北広域振興圏	2.37	2.57	2.34	2.60	2.48	2.76	2.60	2.53	2.54

(10) 「歴史・文化への誇り」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.28点であり、基準年より0.06点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感の横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和6年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

(イ) 令和6年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表25のとおりでした。

表 25 「歴史・文化への誇り」の実感において基準年と比較して有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R6	R6-R5 (対基準年差)
県計		3.23	3.28	0.06*
職業	常用雇用者	3.22	3.36	0.13
居住年数	20年以上	3.23	3.30	0.07

※ 県計の有意な変化はありません。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

(11) 「自然のゆたかさ」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は4.21点であり、基準年と同点でした。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該

分野の実感は横ばいと考えられます。

## イ 属性別の状況

### (ア) 令和6年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代別では、「70歳以上」が低く、「40～49歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60歳以上の無職」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県南広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

### (イ) 令和6年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

## ② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して低値（3点未満）で推移している属性はなく、高値（4点以上）で推移している属性は表26のとおりです。
- ・ 全ての属性において高値で推移しており、本分野について、令和6年補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「感じる・やや感じる」と回答した人が選択した上位3位の項目は、「緑の量(豊か・少ない)」、「空気の状態(綺麗・汚い)」及び「水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)」でした。
- ・ 本分野において、令和5年までに過去2回以上実感が高い要因として推測されたものは、「緑の量が豊かであること」、「空気の状態が綺麗であること」及び「水(河川、池、地下水など)の状態が綺麗であること」でした。
- ・ 以上のことから、本分野において高値で推移している要因は、「緑の量が豊かであること」、「空気の状態が綺麗であること」及び「水(河川、池、地下水など)の状態が綺麗であること」であると推測されます。

表26 「自然のゆたかさ」の実感において高値で推移している属性

属性		H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
県計		4.26	4.27	4.21	4.16	4.18	4.23	4.21	4.21
性別	男性	4.23	4.25	4.19	4.13	4.16	4.20	4.16	4.19
	女性	4.29	4.28	4.23	4.18	4.20	4.25	4.24	4.24
年代	20～29歳	4.37	4.36	4.20	4.20	4.21	4.37	4.24	4.29
	30～39歳	4.28	4.31	4.22	4.33	4.24	4.37	4.27	4.22
	40～49歳	4.30	4.42	4.30	4.16	4.22	4.36	4.33	4.32
	50～59歳	4.30	4.38	4.27	4.25	4.24	4.27	4.29	4.30
	60～69歳	4.24	4.18	4.17	4.09	4.19	4.19	4.16	4.22
	70歳以上	4.20	4.14	4.17	4.10	4.08	4.10	4.10	4.11
職業別	自営業主	4.29	4.29	4.21	4.22	4.19	4.32	4.29	4.31
	会社役員・団体役員	4.28	4.26	4.28	4.20	4.30	4.32	4.29	4.20
	常用雇用者	4.30	4.33	4.25	4.21	4.24	4.31	4.30	4.31
	臨時雇用者	4.36	4.31	4.31	4.22	4.16	4.23	4.13	4.21
	学生＋その他	4.37	4.59	4.33	4.09	4.34	4.38	4.40	4.35
	専業主婦・主夫	4.22	4.29	4.21	4.15	4.21	4.19	4.24	4.24
	60歳以上の無職	4.09	4.04	4.09	4.04	4.07	4.02	4.02	4.04

表 26 「自然のゆたかさ」の実感において高値で推移している属性（続き）

属性		H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
世帯構成	ひとり暮らし	4.18	4.22	4.18	4.16	4.07	4.09	4.11	4.18
	夫婦のみ	4.21	4.22	4.20	4.10	4.21	4.18	4.22	4.28
	2世代世帯	4.29	4.28	4.22	4.19	4.16	4.29	4.23	4.20
	3世代世帯	4.44	4.39	4.34	4.29	4.29	4.30	4.33	4.27
子どもの数	1人	4.28	4.25	4.21	4.16	4.24	4.23	4.20	4.12
	2人	4.24	4.25	4.25	4.16	4.19	4.20	4.21	4.22
	3人	4.28	4.30	4.23	4.16	4.18	4.28	4.27	4.23
	4人以上	4.32	4.28	4.25	4.22	4.18	4.23	4.25	4.29
	子どもはいない	4.27	4.30	4.14	4.19	4.18	4.28	4.21	4.26
居住年数	10～20年未満	4.21	4.29	4.24	4.31	4.35	4.24	4.42	4.21
	20年以上	4.27	4.27	4.22	4.15	4.17	4.23	4.21	4.22
広域振興圏	県央広域振興圏	4.26	4.28	4.19	4.20	4.16	4.23	4.27	4.26
	県南広域振興圏	4.22	4.26	4.15	4.11	4.15	4.17	4.17	4.13
	沿岸広域振興圏	4.25	4.25	4.26	4.13	4.21	4.24	4.15	4.23
	県北広域振興圏	4.37	4.27	4.31	4.23	4.22	4.31	4.28	4.25

#### 4.4 計画開始年（平成31年）と比較した分野別実感の分析について

令和6年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値は表27のとおりであり、計画開始年（平成31年）と比較し、1分野で上昇、7分野で横ばい、4分野で低下となりました。

表27 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（計画開始年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移					
		H31 (計画開始年)	R2	R3	R4	R5	R6 (当該年)
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.00	3.15	3.07	3.20	3.18	3.22
			↑ (0.15)	↑ (0.07)	↑ (0.20)	↑ (0.17)	↑ (0.22)
	(2) 余暇の充実	3.05	2.93	2.97	2.96	2.93	3.02
			↓ (Δ0.12)	↓ (Δ0.08)	↓ (Δ0.09)	↓ (Δ0.11)	- (Δ0.02)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.86	3.85	3.91	3.91	3.88
			- (0.02)	- (0.01)	↑ (0.07)	↑ (0.07)	- (0.04)
	(4) 子育て	3.08	3.07	3.16	3.16	3.06	3.03
			- (Δ0.01)	↑ (0.08)	↑ (0.08)	- (Δ0.02)	- (Δ0.05)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.10	3.09	3.20	3.18	3.14	3.13
			- (Δ0.01)	↑ (0.10)	↑ (0.08)	- (0.03)	- (0.03)
IV 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.34	3.29	3.31	3.31	3.29	3.31
			- (Δ0.05)	- (Δ0.02)	- (Δ0.03)	- (Δ0.04)	- (Δ0.02)
	(7) 地域社会とのつながり	3.35	3.16	3.09	3.10	3.07	3.10
			↓ (Δ0.19)	↓ (Δ0.25)	↓ (Δ0.25)	↓ (Δ0.28)	↓ (Δ0.25)
V 安全	(8) 地域の安全	3.82	3.66	3.76	3.72	3.69	3.66
			↓ (Δ0.16)	↓ (Δ0.06)	↓ (Δ0.10)	↓ (Δ0.13)	↓ (Δ0.16)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.54	3.38	3.49	3.41	3.39	3.39
			↓ (Δ0.16)	- (Δ0.05)	↓ (Δ0.12)	↓ (Δ0.15)	↓ (Δ0.15)
	(10) 必要な収入や所得	2.65	2.56	2.77	2.57	2.53	2.48
			↓ (Δ0.09)	↑ (0.13)	↓ (Δ0.07)	↓ (Δ0.11)	↓ (Δ0.16)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.28	3.25	3.18	3.27	3.23	3.28
			- (Δ0.03)	↓ (Δ0.11)	- (Δ0.01)	↓ (Δ0.06)	- (0.00)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.21	4.16	4.18	4.23	4.21	4.21
			↓ (Δ0.05)	- (0.03)	- (0.02)	- (0.00)	- (0.00)

(注) ① ( ) は計画開始年調査との差。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② t 検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できた分野は、網掛けと矢印で表記しています。

#### 4.4.1 計画開始年と比較して実感が上昇した分野

##### (1) 「心身の健康」の実感

###### ① 分野別実感の概況

###### ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.22点であり、計画開始年より0.22点上昇しています。

t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

###### イ 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表28のとおりでした。

表28 「心身の健康」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R6	R6-H31 <sup>※</sup> (対計画開始年差)
県計		3.00	3.22	0.22
性別	男性	2.97	3.19	0.21
	女性	3.03	3.24	0.21
年代	20～29歳	3.04	3.44	0.39
	30～39歳	2.80	3.15	0.35
	40～49歳	2.85	3.04	0.18
	50～59歳	2.90	3.13	0.24
	60～69歳	3.05	3.21	0.17
	70歳以上	3.13	3.31	0.18
職業	会社役員・団体役員	3.02	3.27	0.25
	常用雇用者	2.91	3.20	0.29
	臨時雇用者	3.04	3.24	0.20
	専業主婦・主夫	3.07	3.31	0.23
	60歳以上の無職	2.90	3.13	0.23
世帯構成	夫婦のみ	3.12	3.40	0.28
	2世代世帯	3.00	3.20	0.21
	3世代世帯	3.01	3.20	0.20
	その他	2.82	3.08	0.26
子どもの数	2人	3.13	3.30	0.17
	3人	3.02	3.29	0.27
	4人以上	2.83	3.32	0.49
	子どもはいない	2.82	3.05	0.23
居住年数	20年以上	2.98	3.21	0.23
広域振興圏	県央広域振興圏	3.09	3.24	0.15
	県南広域振興圏	2.92	3.25	0.33
	県北広域振興圏	2.96	3.21	0.24

※ 四捨五入の関係から R6 と H31 の差が一致しない場合があります。以降の各分野においても同様です。

###### ② 計画開始年と比較して分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、計画開始年と比較して実感が有意に上昇した属性は、表28

のとおりであり、このうち上昇幅が大きい傾向にある属性は、性別「男性」及び「女性」、年代別「20～29歳」、「30～39歳」及び「50～59歳」、職業別「会社役員・団体役員」、「常用雇用者」、「臨時雇用者」、「専業主婦・主夫」及び「60歳以上の無職」、世帯構成別「夫婦のみ世帯」、「2世代世帯」、「3世代世帯」及び「その他世帯」、子どもの数別「3人」、「4人以上」及び「子どもはいない」、居住年数別「20年以上」、広域振興圏別「県南広域振興圏」及び「県北広域振興圏」でした。

- ・ 実感の変動については、「心身の健康」で把握していますが、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」については、「からだの健康」と「こころの健康」に分けて調査を行っており、計画開始年と比較して実感が上昇した人が選択した上位3位の項目は、以下のとおりでした。

【からだの健康】

- a 睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
- b 健康診断の結果
- c こころの健康状態

【こころの健康】

- a 睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
- b からだの健康状態
- c 相談相手の有無

- ・ 補足調査結果において、計画開始年と比較して実感が上昇した人と実感が低下した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位3項目以外を比較すると、「からだの健康」については「食事の制限の有無」において、また、「こころの健康」については「充実した余暇の有無（仕事・学業以外の趣味など）」において、それぞれ実感が低下した人の回答が少ない一方で、実感が上昇した人で回答が多いことから、当該理由も実感が低下した要因の一つと推測されます。

- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が計画開始年と比較して上昇した要因は、「からだの健康」が「睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」、「健康診断の結果が良かったこと」、「こころの健康状態が良かったこと」及び「食事の制限がないこと」とであると推測されます（表29）。

また、「こころの健康」が「睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」、「からだの健康状態が良かったこと」、「相談相手がいること」及び「余暇が充実していたこと（仕事・学業以外の趣味など）」であると推測されます（表30）。

表 29 「心身の健康（からだの健康）」の実感が計画開始年と比較して上昇した要因とその具体的な内容

実感が上昇した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと	定期的に休みを取れる、仕事以外に好きな活動が出来ているなど
健康診断の結果が良かったこと	健康診断の結果異常なしなど
こころの健康状態が良かったこと	持病もなく、食事の制限もないなど
食事の制限がないこと	自分の好きな物を食べられるなど

表 30 「心身の健康（こころの健康）」の実感が計画開始年と比較して上昇した要因とその具体的な内容

実感が上昇した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと	定期的に休みが取れる、残業が少ないなど
からだの健康状態が良かったこと	健康に気を付けている、からだは良好など
相談相手がいること	人間関係に恵まれている、家族や友人が近くにいるなど
余暇が充実していたこと（仕事・学業以外の趣味など）	好きな音楽を聴いてストレスが解消される、子どもとの時間など

#### 4.4.2 計画開始年と比較して実感が低下した分野

##### (1) 「地域社会とのつながり」の実感

###### ① 分野別実感の概況

###### ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.10点であり、計画開始年より0.25点低下しています。

t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

###### イ 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表31のとおりでした。

表31 「地域社会とのつながり」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
県計		3.35	3.10	▲ 0.25
性別	男性	3.37	3.08	▲ 0.29
	女性	3.33	3.11	▲ 0.21
年代	30～39歳	3.03	2.64	▲ 0.39
	40～49歳	3.22	2.84	▲ 0.38
	50～59歳	3.30	3.00	▲ 0.31
	60～69歳	3.37	3.13	▲ 0.24
	70歳以上	3.59	3.32	▲ 0.27
職業	会社役員・団体役員	3.38	3.15	▲ 0.23
	常用雇用者	3.22	2.91	▲ 0.31
	臨時雇用者	3.27	3.03	▲ 0.24
	60歳以上の無職	3.48	3.15	▲ 0.33
世帯構成	ひとり暮らし	3.15	2.88	▲ 0.28
	夫婦のみ	3.39	3.17	▲ 0.22
	2世代世帯	3.34	3.10	▲ 0.25
	3世代世帯	3.53	3.21	▲ 0.32
子どもの数	1人	3.31	2.94	▲ 0.37
	2人	3.45	3.21	▲ 0.23
	3人	3.47	3.27	▲ 0.20
	4人以上	3.43	3.14	▲ 0.29
	子どもはいない	3.08	2.87	▲ 0.20
居住年数	20年以上	3.37	3.13	▲ 0.24
広域振興圏	県央広域振興圏	3.24	3.02	▲ 0.22
	県南広域振興圏	3.40	3.12	▲ 0.28
	沿岸広域振興圏	3.43	3.13	▲ 0.30
	県北広域振興圏	3.33	3.17	▲ 0.16

###### ② 計画開始年と比較して分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、計画開始年と比較して実感が有意に低下した属性は、表31のとおり幅広く存在しており、広域振興圏別「県北広域振興圏」を除き、低下幅が大きい傾向にあります。

- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、計画開始年と比較して実感が低下した人が選択した上位3位の項目は、以下のとおりでした。
  - a 隣近所との面識・交流
  - b 自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）
  - c その地域で過ごした年数
- ・ 補足調査結果において、計画開始年と比較して実感が低下した人と実感が上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位3項目以外を比較しましたが、特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が計画開始年と比較して低下した要因は、「隣近所との面識・交流が減ったこと」、「自治会・町内活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）が減ったこと」、及び「その地域で過ごした年数が影響していること」であると推測されます（表32）。
- ・ なお、補足調査の自由記載においては、「町内会活動が多すぎる」、「昔からの行事など今に合わないものが多い」、「地域社会にはかかわりたくない」など、地域社会とのつながりを必ずしもポジティブに捉えていない記述も認められており、地域社会とのつながりについて、価値観が多様化している可能性に留意する必要があります。

表 32 「地域社会とのつながり」の実感が計画開始年と比較して低下した要因とその具体的な内容

実感が低下した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
隣近所との面識・交流が減ったこと	仕事もあり交流する機会がない、新しく住んでいる人との交流がないなど
自治会・町内活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）が減ったこと	高齢者が増え参加者が減少傾向など
その地域で過ごした年数が影響していること	—

## (2) 「地域の安全」の実感

### ① 分野別実感の概況

#### ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.66 点であり、計画開始年より 0.16 点低下しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

#### イ 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表 33 のとおりでした。

表 33 「地域の安全」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
県計		3.82	3.66	▲ 0.16
性別	男性	3.84	3.69	▲ 0.15
	女性	3.80	3.63	▲ 0.17

表 33 「地域の安全」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差（続き）

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
年代	40～49 歳	3.79	3.58	▲ 0.21
	50～59 歳	3.84	3.66	▲ 0.19
	60～69 歳	3.80	3.62	▲ 0.17
	70 歳以上	3.91	3.72	▲ 0.18
職業	会社役員・団体役員	3.85	3.64	▲ 0.21
	常用雇用者	3.83	3.65	▲ 0.18
	60 歳以上の無職	3.86	3.68	▲ 0.18
世帯構成	ひとり暮らし	3.72	3.55	▲ 0.18
	2 世代世帯	3.81	3.66	▲ 0.14
	3 世代世帯	3.89	3.65	▲ 0.24
子どもの数	1 人	3.80	3.54	▲ 0.26
	2 人	3.85	3.68	▲ 0.17
	3 人	3.85	3.72	▲ 0.13
居住年数	20 年以上	3.83	3.67	▲ 0.16
広域振興圏	県央広域振興圏	3.87	3.74	▲ 0.14
	県南広域振興圏	3.78	3.65	▲ 0.14
	沿岸広域振興圏	3.82	3.58	▲ 0.24
	県北広域振興圏	3.82	3.66	▲ 0.16

## ② 計画開始年と比較して分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、計画開始年と比較して実感が有意に低下した属性は、表 33 のとおりであり、このうち低下幅が大きい傾向にある属性は、年代別「40～49 歳」、職業別「会社役員・団体役員」、世帯構成別「3 世代世帯」、子どもの数別「1 人」、広域振興圏別「沿岸広域振興圏」でした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、計画開始年と比較して実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
  - a 犯罪の発生状況
  - b 地域の防犯体制（防犯パトロール、街頭防犯カメラなど）
  - c 社会インフラの老朽化（橋、下水道など）
- ・ また、上記 3 項目とほぼ同じ割合で、「自然災害の発生」が選択されていることから、当該理由も実感が低下した要因の一つと推測されます。
- ・ 補足調査において、計画開始年と比較して実感が低下した人と実感が上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位 3 項目以外を比較しましたが、特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が計画開始年と比較して低下した要因は、「犯罪の発生状況に不安があること」、「地域の防犯体制に不安があること」、「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）に不安があること」及び「自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること」であると推測されます（表 34）。
- ・ なお、補足調査における「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の選択肢には、野生動物の農林業被害や人身被害に関するものはありませんが、自由記載にお

いては、クマやイノシシ等の出没や被害への不安に関する記述も認められており、本分野の実感の低下との関連が推測されます。

表 34 「地域の安全」の実感が計画開始年と比較して低下した要因とその具体的な内容

実感が低下した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
犯罪の発生状況に不安があること	—
地域の防犯体制に不安があること	街路灯が少ない、バイク・車の暴走車両など
社会インフラの老朽化（橋、下水道など）に不安があること	側溝が整備されていないなど
自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること	大雨が降ると土砂崩れが心配など

### (3) 「仕事のやりがい」の実感

#### ① 分野別実感の概況

##### ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.39 点であり、計画開始年より 0.15 点低下しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

##### イ 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表 35 のとおりでした。

表 35 「仕事のやりがい」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
県計		3.54	3.39	▲ 0.15
性別	男性	3.53	3.41	▲ 0.13
	女性	3.54	3.37	▲ 0.17
年代	30～39 歳	3.39	3.14	▲ 0.25
	40～49 歳	3.45	3.26	▲ 0.19
	70 歳以上	3.72	3.42	▲ 0.31
世帯構成	2 世代世帯	3.51	3.38	▲ 0.14
	3 世代世帯	3.60	3.31	▲ 0.29
子どもの数	1 人	3.54	3.32	▲ 0.21
	2 人	3.57	3.46	▲ 0.11
	3 人	3.74	3.46	▲ 0.28
居住年数	20 年以上	3.53	3.40	▲ 0.14
広域振興圏	県央広域振興圏	3.58	3.37	▲ 0.20
	沿岸広域振興圏	3.57	3.36	▲ 0.21

#### ② 計画開始年と比較して分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、計画開始年と比較して実感が有意に低下した属性は、表 35 のとおりであり、このうち低下幅が大きい傾向にある属性は、年代別「30～39 歳」及び「70 歳以上」、世帯構成別「3 世代世帯」、子どもの数別「1 人」及び「3 人」、広域振興圏別「県央広域振興圏」及び「沿岸広域振興圏」でした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、

計画開始年と比較して実感が低下した人が選択した上位3位の項目は、以下のとおりでした。

- a 現在の職種・業務の内容
  - b 現在の収入・給料の額
  - c 職場の人間関係
- ・ 補足調査結果において、計画開始年と比較して実感が低下した人と実感が上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位3項目以外を比較すると、「将来の収入・給料の額の見込み」において、実感が上昇した人の回答が少ない一方で、実感が低下した人で回答が多いことから、当該理由も実感が低下した要因の一つと推測されます。
  - ・ これらの結果は、仕事をしている属性に限定して、実感の変動と「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の回答を整理した場合も同様でした。
  - ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が計画開始年と比較して低下した要因は、「現在の職種・業務の内容に不満があること」、「現在の収入・給料の額が十分とは言えないこと」、「職場の人間関係が良好とは言えないこと」及び「将来の収入・給料の額の見込みに不安があること」であると推測されます（表36）。

表36 「仕事のやりがい」の実感が計画開始年と比較して低下した要因とその具体的な内容

実感が低下した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
現在の職種・業務の内容に不満があること	問題となる仕事しか回されないなど
現在の収入・給料の額が十分とは言えないこと	生活には額が少ない、給料アップがないなど
職場の人間関係が良好とは言えないこと	職場の人と関係がうまくいっていない、相談できないなど
将来の収入・給料の額の見込みに不安があること	給料の額が増えないなど

#### (4) 「必要な収入や所得」の実感

##### ① 分野別実感の概況

###### ア 分野別実感の推移

実感平均値は2.48点であり、計画開始年より0.16点低下しています。

t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

###### イ 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表37のとおりでした。

表37 「必要な収入や所得」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
県計		2.65	2.48	▲ 0.16
性別	男性	2.68	2.50	▲ 0.18
	女性	2.61	2.47	▲ 0.15
年代	40～49歳	2.66	2.40	▲ 0.26
	70歳以上	2.75	2.52	▲ 0.23

表 37 「必要な収入や所得」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差（続き）

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
職業	自営業主	2.86	2.54	▲ 0.31
	常用雇用者	2.72	2.52	▲ 0.20
	臨時雇用者	2.56	2.30	▲ 0.26
世帯構成	2世代世帯	2.62	2.40	▲ 0.21
	3世代世帯	2.72	2.45	▲ 0.28
子どもの数	1人	2.70	2.28	▲ 0.42
	2人	2.71	2.53	▲ 0.17
	3人	2.69	2.53	▲ 0.16
居住年数	20年以上	2.66	2.48	▲ 0.18
広域振興圏	県央広域振興圏	2.73	2.55	▲ 0.18
	沿岸広域振興圏	2.71	2.38	▲ 0.33

## ② 計画開始年と比較して分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、計画開始年と比較して実感が有意に低下した属性は、表 37 のとおりであり、このうち低下幅が大きい傾向にある属性は、年代別「40～49 歳」及び「70 歳以上」、職業別「自営業主」、「常用雇用者」及び「臨時雇用者」、世帯構成別「2 世代世帯」及び「3 世代世帯」、子どもの数別「1 人」、広域振興圏別「沿岸広域振興圏」でした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、計画開始年と比較して実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
  - a 自分の収入・所得額（年金を含む）
  - b 家族の収入・所得額（年金を含む）
  - c 自分の支出額
- ・ 補足調査結果において、計画開始年と比較して実感が低下した人と実感が上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位 3 項目以外を比較すると、「自分の借金の額」において、実感が上昇した人の回答が少ない一方で、実感が低下した人で回答が多いことから、当該理由も実感が低下した要因の一つと推測されます。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が計画開始年と比較して低下した要因は、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「自分の支出額が多い、又は十分な支出ができないこと」及び「自分の借金の額が多いこと」とであると推測されます（表 38）。

表 38 「必要な収入や所得」の実感が計画開始年と比較して低下した要因とその具体的な内容

実感が低下した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと	物価だけが上がっている、年金額に比べ医療費が多いなど
家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと	家族2人で年金がほとんどで大変、物価高に収入が追い付かないなど
自分の支出額が多い、又は十分な支出ができないこと	子どもの教育費用が高いなど
自分の借金の額が多いこと	住宅ローンの完済まで貯蓄に回せないなど

#### 4.4.3 計画開始年と比較して実感が横ばいの分野

##### (1) 「余暇の充実」の実感

###### ① 分野別実感の推移

実感平均値は 3.02 点であり、計画開始年より 0.02 点低下しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

###### ② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表 39 のとおりでした。

表 39 「余暇の充実」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
県計		3.05	3.02	▲ 0.02*
年代	70 歳以上	3.36	3.16	▲ 0.20
職業	60 歳以上の無職	3.26	3.09	▲ 0.17

※ 県計の有意な変化はありません。

##### (2) 「家族関係」の実感

###### ① 分野別実感の推移

実感平均値は 3.88 点であり、計画開始年より 0.04 点上昇しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

###### ② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表 40 のとおりでした。

表 40 「家族関係」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
県計		3.84	3.88	0.04*
職業	会社役員・団体役員	3.73	3.97	0.24
世帯構成	夫婦のみ	4.02	4.15	0.13
子どもの数	3 人	3.83	3.96	0.14

※ 県計の有意な変化はありません。

##### (3) 「子育て」の実感

###### ① 分野別実感の推移

実感平均値は 3.03 点であり、計画開始年より 0.05 点低下しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

###### ② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表 41 のとおりでした。

表 41 「子育て」の実感において有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
県計		3.08	3.03	▲ 0.05*
年代	30～39 歳	3.03	2.61	▲ 0.43
	40～49 歳	3.09	2.87	▲ 0.22
職業	常用雇用者	3.06	2.91	▲ 0.15
世帯構成	2 世代世帯	3.12	2.98	▲ 0.15

※ 県計の有意な変化はありません。

#### (4) 「子どもの教育」の実感

##### ① 分野別実感の推移

実感平均値は 3.13 点であり、計画開始年より 0.03 点上昇しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

##### ② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表 42 のとおりでした。

表 42 「子どもの教育」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
県計		3.10	3.13	0.03*
年代	40～49 歳	3.14	2.96	▲ 0.18
	60～69 歳	2.95	3.07	0.13

※ 県計の有意な変化はありません。

#### (5) 「住まいの快適さ」の実感

##### ① 分野別実感の推移

実感平均値は 3.31 点であり、計画開始年より 0.02 点低下しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

##### ② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表 43 のとおりでした。

表 43 「住まいの快適さ」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
県計		3.34	3.31	▲ 0.02*
年代	70 歳以上	3.54	3.43	▲ 0.11
子どもの数	1 人	3.33	3.16	▲ 0.17

※ 県計の有意な変化はありません。

## (6) 「歴史・文化への誇り」の実感

### ① 分野別実感の推移

実感平均値は 3.28 点であり、計画開始年と同点でした。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

### ② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表 44 のとおりでした。

表 44 「歴史・文化への誇り」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
県計		3.28	3.28	0.00 <sup>※</sup>
年代	30～39 歳	3.02	3.26	0.24
	50～59 歳	3.26	3.40	0.15
	70 歳以上	3.42	3.26	▲ 0.15
職業	常用雇用者	3.21	3.36	0.15
広域振興圏	県央広域振興圏	3.27	3.40	0.13

※ 県計の有意な変化はありません。

## (7) 「自然のゆたかさ」の実感

### ① 分野別実感の推移

実感平均値は 4.21 点であり、計画開始年と同点でした。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

### ② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は、表 45 のとおりでした。

表 45 「自然のゆたかさ」の実感において計画開始年と有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R6	R6-H31 (対計画開始年差)
県計		4.21	4.21	0.00 <sup>※</sup>
子どもの数	子どもはいない	4.14	4.26	0.11

※ 県計の有意な変化はありません。

## 第5章 まとめ

### 5.1 主観的幸福感について

令和6年県民意識調査結果に、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の実感平均値は3.51点となり、基準年より0.02点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、主観的幸福感、基準年に比べて横ばいと考えられます。

基準年と比較して上昇した属性は、子どもの数別では「2人」であり、低下した属性は、年代別では「40～49歳」でした。

同様に、計画開始年と比較すると0.09点上昇しており、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に上昇していることから、主観的幸福感、計画開始年に比べて上昇していると考えられます。

計画開始年と比較して上昇した属性は、性別では「女性」、年代別では「50～59歳」、世帯構成別では「夫婦のみ世帯」、子どもの数別では「2人」、「4人以上」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

また、幸福を判断するに当たっては、「健康状況」や「家族関係」を特に重視する傾向にあります。

### 5.2 基準年（令和5年）と比較した分野別実感の分析について

分野別実感の平均値は、基準年と比較して、1分野で上昇、11分野で横ばいとなりました。

#### 5.2.1 基準年と比較して実感が上昇した分野

##### (1) 「余暇の充実」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.09点上昇して3.02点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意に上昇しているため、「余暇の充実」の実感は上昇していると考えられます。

基準年と比較して上昇した属性は、性別では「女性」、年代別では「70歳以上」、職業別では「自営業主」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「夫婦のみ世帯」、子どもの数別では「2人」、居住年数別では「20年以上」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果から、「自由な時間を十分に確保できたこと」、「家族との交流が増えたこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が増えたこと」、「文化・芸術の鑑賞機会が増えたこと」及び「知人・友人との交流が増えたこと」であると推測されます。

平成28年から一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は、年代別では「40～49歳」、「50～59歳」、職業別では「常用雇用者」、世帯構成別では「2世代世帯」、子どもの数別では「子どもはいない」であり、令和6年補足調査及びこれまでの調査結果から、その要因は、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」及び「知人・友人との交流が少ないこと」であると推測されます。

#### 5.2.2 基準年と比較して実感が横ばいの分野

##### (1) 「心身の健康」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.05点上昇して3.22点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「心

身の健康」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して上昇した属性は、世帯構成別では「夫婦のみ世帯」、子どもの数別では「2人」であり、低下した属性はありませんでした。

平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

## (2) 「家族関係」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.03点低下して3.88点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「家族関係」の実感の横ばいと考えられます。

基準年と比較して低下した属性は、年代別では「40～49歳」であり、上昇した属性はありませんでした。

平成28年から一貫して低値（3点未満）で推移している属性はなく、高値（4点以上）で推移している属性は、世帯構成別では「夫婦のみ世帯」であり、令和6年補足調査及びこれまでの調査結果から、その要因は、「会話の頻度が多いこと」、「同居がうまくいっていること」、「困ったときに助け合っていること」及び「家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしていること」であると推測されます。

## (3) 「子育て」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.03点低下して3.03点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「子育て」の実感の横ばいと考えられます。

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

平成28年から一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は、子どもの数別では「子どもはいない」であり、令和6年補足調査及びこれまでの調査結果から、その要因は、「子どもの教育にかかる費用が高いこと」、「子育てにかかる費用が高いこと」、「自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）に不満があること」及び「子育てサービス支援の内容が十分とは言えないこと」であると推測されます。

## (4) 「子どもの教育」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.01点低下して3.13点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「子どもの教育」の実感の横ばいと考えられます。

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

平成28年から一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は、子どもの数別では「子どもはいない」であり、令和6年補足調査及びこれまでの調査結果から、その要因は、「人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと」、「不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと」及び「学力を育む教育内容が十分とは言えないこと」であると推測されます。

## (5) 「住まいの快適さ」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.02点上昇して3.31点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「住まいの快適さ」の実感の横ばいと考えられます。

基準年と比較して上昇した属性は、子どもの数別では「4人以上」であり、低下した属性はありませんでした。

平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）又は低値（3

点未満)で推移している属性はありませんでした。

#### (6) 「地域社会とのつながり」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.03点上昇して3.10点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「地域社会とのつながり」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して上昇した属性は、年代別では「20～29歳」であり、低下した属性はありませんでした。

平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値(4点以上)又は低値(3点未満)で推移している属性はありませんでした。

#### (7) 「地域の安全」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.03点低下して3.66点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「地域の安全」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して低下した属性は、広域振興圏別では「県南広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値(4点以上)又は低値(3点未満)で推移している属性はありませんでした。

#### (8) 「仕事のやりがい」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、基準年と同点の3.39点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「仕事のやりがい」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値(4点以上)又は低値(3点未満)で推移している属性はありませんでした。

#### (9) 「必要な収入や所得」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.05点低下して2.48点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「必要な収入や所得」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

平成28年から一貫して高値(4点以上)で推移している属性はなく、低値(3点未満)で推移している属性は、職業別「会社役員・団体役員」及び居住年数別「10～20年未満」を除く全ての属性であり、令和6年補足調査及びこれまでの調査結果から、その要因は、「自分の収入・所得額(年金を含む)が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額(年金を含む)が十分とは言えないこと」、「自分の金融資産の額が十分とは言えないこと」及び「自分の収入に比べて支出額が多いこと、あるいは十分な支出ができないこと」であると推測されます。

#### (10) 「歴史・文化への誇り」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.06点上昇して3.28点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「歴史・文化への誇り」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して上昇した属性は、職業別では「常用雇用者」、居住年数別では「20年以上」であり、低下した属性はありませんでした。

平成28年から令和6年までの県民意識調査で、一貫して高値(4点以上)又は低値(3点未満)で推移している属性はありませんでした。

## (11) 「自然のゆたかさ」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、基準年と同点の4.21点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「自然のゆたかさ」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

平成28年から一貫して低値(3点未満)で推移している属性はなく、高値(4点以上)で推移している属性は全属性であり、令和6年補足調査及びこれまでの調査結果から、その要因は、「緑の量が豊かであること」、「空気の状態が綺麗であること」及び「水(河川、池、地下水など)の状態が綺麗であること」であると推測されます。

## 5.3 計画開始年(平成31年)と比較した分野別実感の分析について

分野別実感の平均値は、計画開始年と比較して、1分野で上昇、7分野で横ばい、4分野で低下となりました。

### 5.3.1 計画開始年と比較して実感が上昇した分野

#### (1) 「心身の健康」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、計画開始年より0.22点上昇して3.22点であり、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に上昇しているため、「心身の健康」の実感は上昇していると考えられます。

計画開始年と比較して上昇した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「20～29歳」、「30～39歳」、「40～49歳」、「50～59歳」、「60～69歳」、「70歳以上」、職業別では「会社役員・団体役員」、「常用雇用者」、「臨時雇用者」、「専業主婦・主夫」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「夫婦のみ世帯」、「2世代世帯」、「3世代世帯」、「その他世帯」、子どもの数別では「2人」、「3人」、「4人以上」、「子どもはいない」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」、「県南広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

計画開始年と比較して当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果から、「からだの健康」については、「睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分(ワークライフバランス)が良かったこと」、「健康診断の結果が良かったこと」、「こころの健康状態が良かったこと」及び「食事の制限がないこと」であると推測されます。

また、「こころの健康」については、「睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分(ワークライフバランス)が良かったこと」、「からだの健康状態が良かったこと」、「相談相手がいること」及び「余暇が充実していたこと(仕事・学業以外の趣味など)」であると推測されます。

### 5.3.2 計画開始年と比較して実感が低下した分野

#### (1) 「地域社会とのつながり」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、計画開始年より0.25点低下して3.10点であり、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に低下しているため、「地域社会とのつながり」の実感は、低下していると考えられます。

計画開始年と比較して低下した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「30～39歳」、「40～49歳」、「50～59歳」、「60～69歳」、「70歳以上」、職業別では「会社役員・団体役員」、「常用雇用者」、「臨時雇用者」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「ひとり暮らし」、「夫婦のみ世帯」、「2世代世帯」、「3世代世帯」、子どもの数別では「1人」、「2人」、「3人」、「4人以上」、「子どもはいない」、居住年数別では「20年以上」、広域振興

圏別では「県央広域振興圏」、「県南広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

計画開始年と比較して当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果から、「隣近所との面識・交流が減ったこと」、「自治会・町内活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）が減ったこと」、及び「その地域で過ごした年数が影響していること」であると推測されます。

## (2) 「地域の安全」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、計画開始年より0.16点低下して3.66点であり、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に低下しているため、「地域の安全」の実感は低下していると考えられます。

計画開始年と比較して低下した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「40～49歳」、「50～59歳」、「60～69歳」、「70歳以上」、職業別では「会社役員・団体役員」、「常用雇用者」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「ひとり暮らし」、「2世代世帯」、「3世代世帯」、子どもの数別では「1人」、「2人」、「3人」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」、「県南広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

計画開始年と比較して当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果から、「犯罪の発生状況に不安があること」、「地域の防犯体制に不安があること」、「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）に不安があること」及び「自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること」であると推測されます。

## (3) 「仕事のやりがい」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、計画開始年より0.15点低下して3.39点であり、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に低下しているため、「仕事のやりがい」の実感は低下していると考えられます。

計画開始年と比較して低下した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「30～39歳」、「40～49歳」、「70歳以上」、世帯構成別では「2世代世帯」、「3世代世帯」、子どもの数別では「1人」、「2人」、「3人」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

計画開始年と比較して当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果から、「現在の職種・業務の内容に不満があること」、「現在の収入・給料の額が十分とは言えないこと」、「職場の人間関係が良好とは言えないこと」及び「将来の収入・給料の額の見込みに不安があること」であると推測されます。

## (4) 「必要な収入や所得」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、計画開始年より0.16点低下して2.48点であり、t検定を行った結果、有意に低下しているため、「必要な収入や所得」の実感は低下していると考えられます。

計画開始年と比較して低下した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「40～49歳」、「70歳以上」、職業別では「自営業主」、「常用雇用者」、「臨時雇用者」、世帯構成別では「2世代世帯」、「3世代世帯」、子どもの数別では「1人」、「2人」、「3人」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

計画開始年と比較して当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果から、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「自分の支出額が多い、又は十分な支出ができないこと」及び「自分の借金の額が多いこと」であると推測されます。

### 5.3.3 計画開始年と比較して実感が横ばいの分野

#### (1) 「余暇の充実」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、計画開始年より0.02点低下して3.02点であり、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「余暇の充実」の実感は横ばいと考えられます。

計画開始年と比較して低下した属性は、年代別では「70歳以上」、職業別では「60歳以上の無職」であり、上昇した属性はありませんでした。

#### (2) 「家族関係」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、計画開始年より0.04点上昇して3.88点であり、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「家族関係」の実感は横ばいと考えられます。

計画開始年と比較して上昇した属性は、職業別では「会社役員・団体役員」、世帯構成別では「夫婦のみ世帯」、子どもの数別では「3人」であり、低下した属性はありませんでした。

#### (3) 「子育て」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、計画開始年より0.05点低下して3.03点であり、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「子育て」の実感は横ばいと考えられます。

計画開始年と比較して低下した属性は、年代別では「30～39歳」、「40～49歳」、職業別では「常用雇用者」、世帯構成別では「2世代世帯」であり、上昇した属性はありませんでした。

#### (4) 「子どもの教育」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、計画開始年より0.03点上昇して3.13点であり、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「子どもの教育」の実感は横ばいと考えられます。

計画開始年と比較して上昇した属性は、年代別では「60～69歳」であり、低下した属性は、年代別では「40～49歳」でした。

#### (5) 「住まいの快適さ」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、計画開始年より0.02点低下して3.31点であり、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「住まいの快適さ」の実感は横ばいと考えられます。

計画開始年と比較して、低下した属性は、年代別では「70歳以上」、子どもの数別では「1人」であり、上昇した属性はありませんでした。

#### (6) 「歴史・文化への誇り」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、計画開始年と同点の3.28点であり、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「歴史・文化への誇り」の実感は横ばいと考えられます。

計画開始年と比較して上昇した属性は、年代別では「30～39歳」、「50～59歳」、職業別では「常用雇用者」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」であり、低下した属性は、年代別では「70歳以上」でした。

#### (7) 「自然のゆたかさ」の実感

令和6年県民意識調査における実感平均値は、計画開始年と同点の4.21点であり、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「自然のゆたかさ」の実感は横ばいと考えられます。

計画開始年と比較して上昇した属性は、子どもの数別では「子どもはいない」であり、低下した属性はありませんでした。

**【追加分析】**

**新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と  
分野別実感の関連性の分析**

## 1 新型コロナウイルス感染症の状況

令和元年末に端を発し、世界中に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、令和2年1月に国内で確認され、本県においても令和2年7月に感染が確認されて以降、流行を繰り返す状況が続いてきました（図 追加-1 及び図 追加-2）。

感染拡大が始まった当初は、2類感染症相当に位置付けられ、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置に基づく外出の自粛、飲食店・大規模施設への休業要請などの強い行動制限を主体とした感染対策が、全国的に行われていました。

本県においても、感染拡大時には「岩手警戒宣言」及び「岩手緊急事態宣言」により、感染拡大防止対策等の呼びかけ・要請を行いました。（表 追加-1）

令和4年4月以降は、オミクロン株の特性を踏まえ、新たな行動制限を行わず、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る方針とされました。

令和5年5月8日以降は、5類感染症に位置付けられ、行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから転換し、個人の選択を尊重し、国民の自主的な取組を基本とする対応が行われています。

令和6年の県民意識調査は、5類感染症に位置付けられてから最初の調査となります。

図 追加-1 5類感染症移行前の岩手県の新型コロナウイルス感染症の感染状況  
(令和2年7月から令和5年4月)

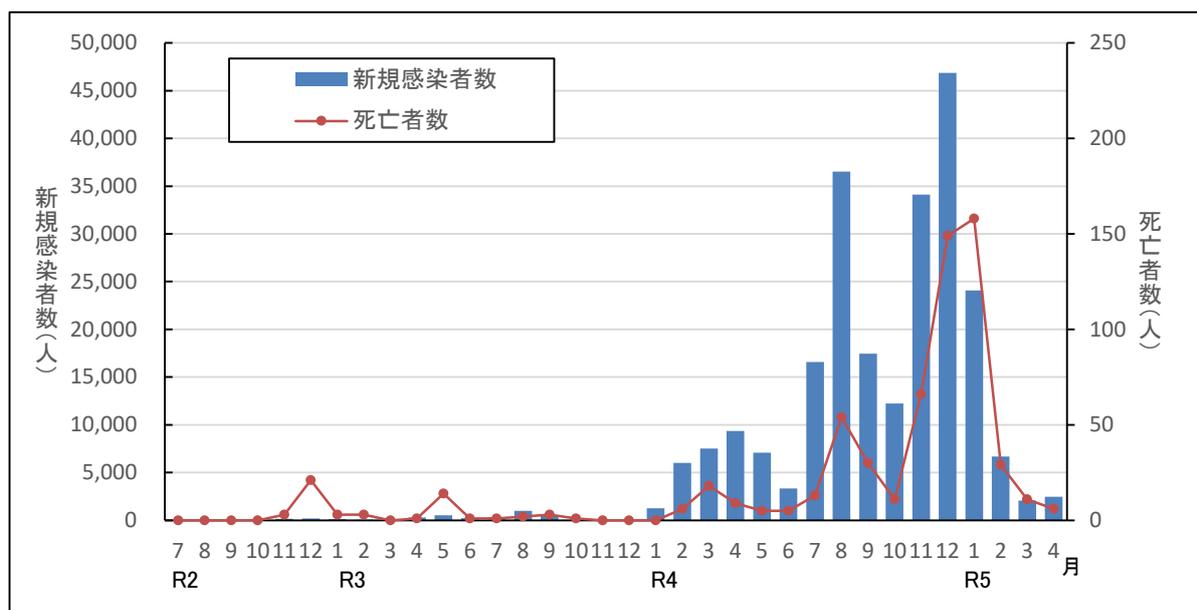
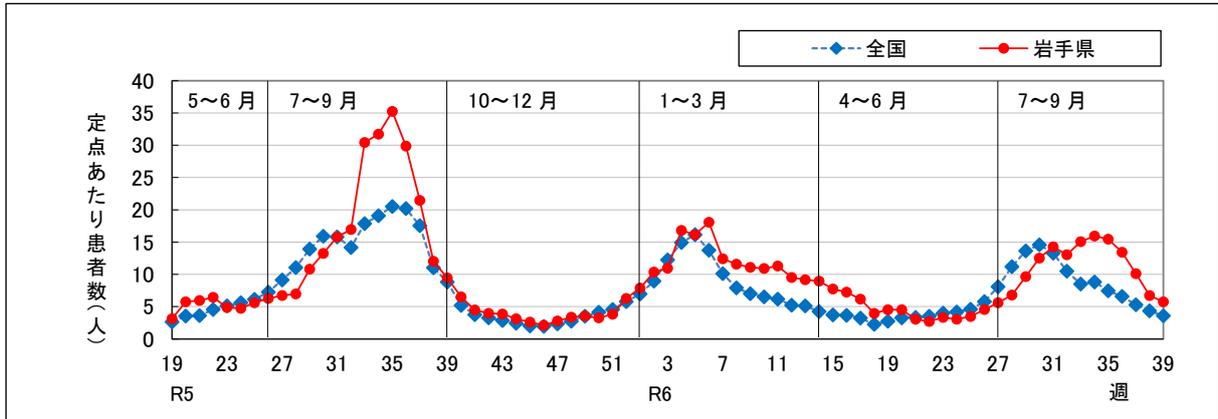


図 追加-2 5類感染症移行後の岩手県及び全国の新型コロナウイルス感染症の感染状況  
(令和5年第19週から令和6年第39週)



※ 新型コロナウイルス感染症については、令和5年5月7日まで全数把握が行われ、患者数は毎日公表されていましたが、5類感染症への移行に伴い、令和5年5月8日以降は定点医療機関からの毎週の報告に変更されました。そのため、5類感染症移行前の状況を図 追加-1に、5類感染症移行後の状況を図 追加-2に分けて図示しています。

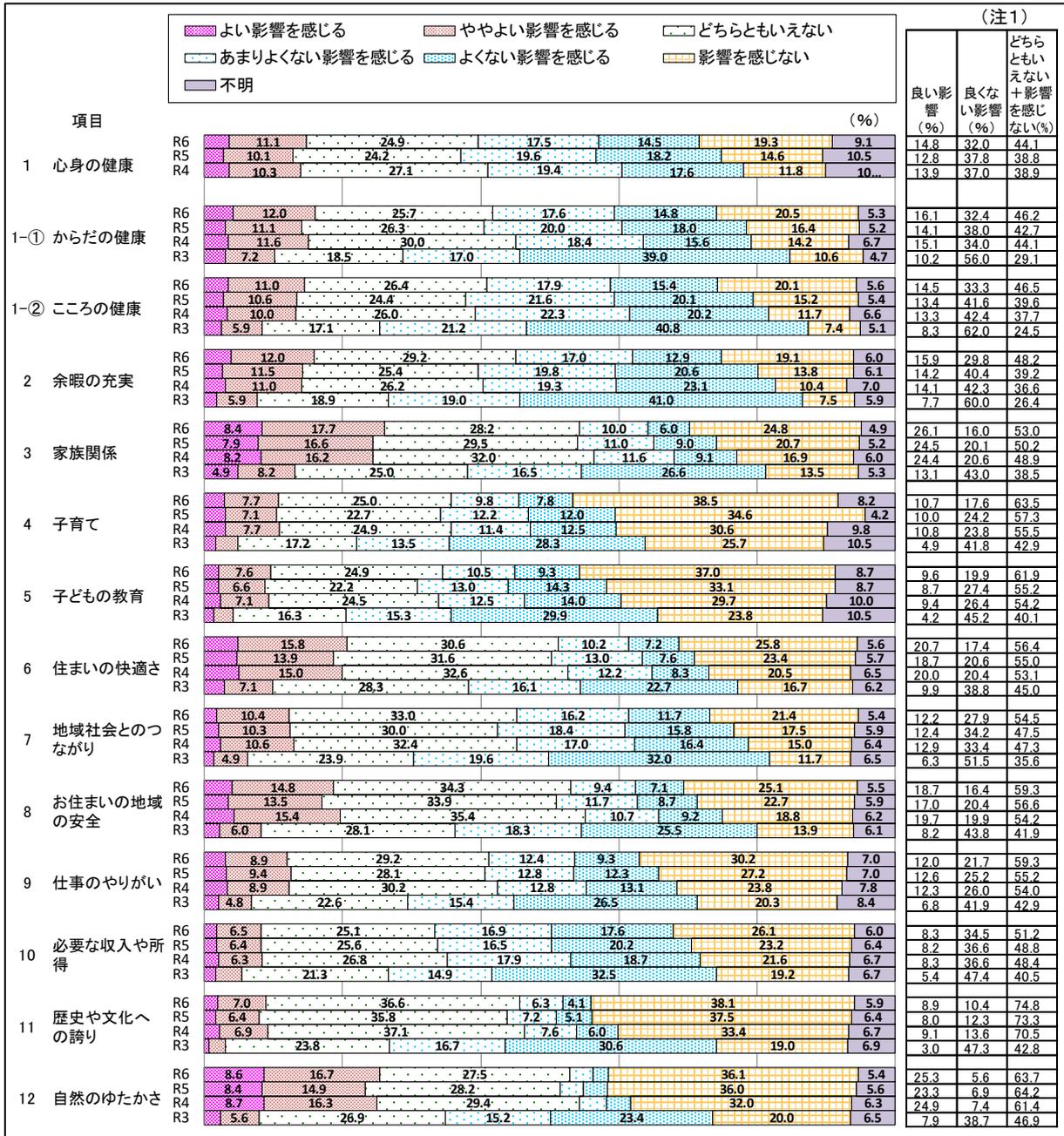
表 追加-1 岩手警戒宣言及び岩手緊急事態宣言の期間及び主な取組

宣言	期間	主な取組
岩手警戒宣言	令和3年7月9日 ～8月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や職場を含む全ての場における基本的な感染対策の再徹底を要請</li> <li>都道府県をまたぐ不要不急の帰省や旅行の中止・延期を要請（8月3日から）</li> </ul>
岩手緊急事態宣言	令和3年8月12日 ～9月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>不要不急の外出の自粛を要請</li> <li>都道府県をまたぐ不要不急の帰省や旅行の中止・延期を要請</li> <li>盛岡市全域を重点区域とし、区域内の飲食店等に対する営業時間短縮の要請（8月30日から9月12日）</li> </ul>
岩手警戒宣言	令和4年1月8日 ～1月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や職場を含む全ての場における基本的な感染対策の再徹底を要請</li> <li>感染が拡大している地域との往来は慎重に判断することを要請</li> </ul>
岩手緊急事態宣言	令和4年1月23日 ～5月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>混雑した場所や感染リスクの高い場所への外出の自粛及び緊急事態宣言区域等への不要不急の往来の自粛を要請</li> <li>学校の部活動時間の短縮などを要請（2月1日から）</li> </ul>

## 2 追加分析の内容

新型コロナウイルス感染症の各分野への影響に関する設問は、令和3年県民意識調査時から設けており、令和6年調査の回答結果（図 追加-3）と令和2年から令和6年の分野別実感（図 追加-4）をもとに、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響の度合いと、分野別実感の関連性を統計的に分析しました。

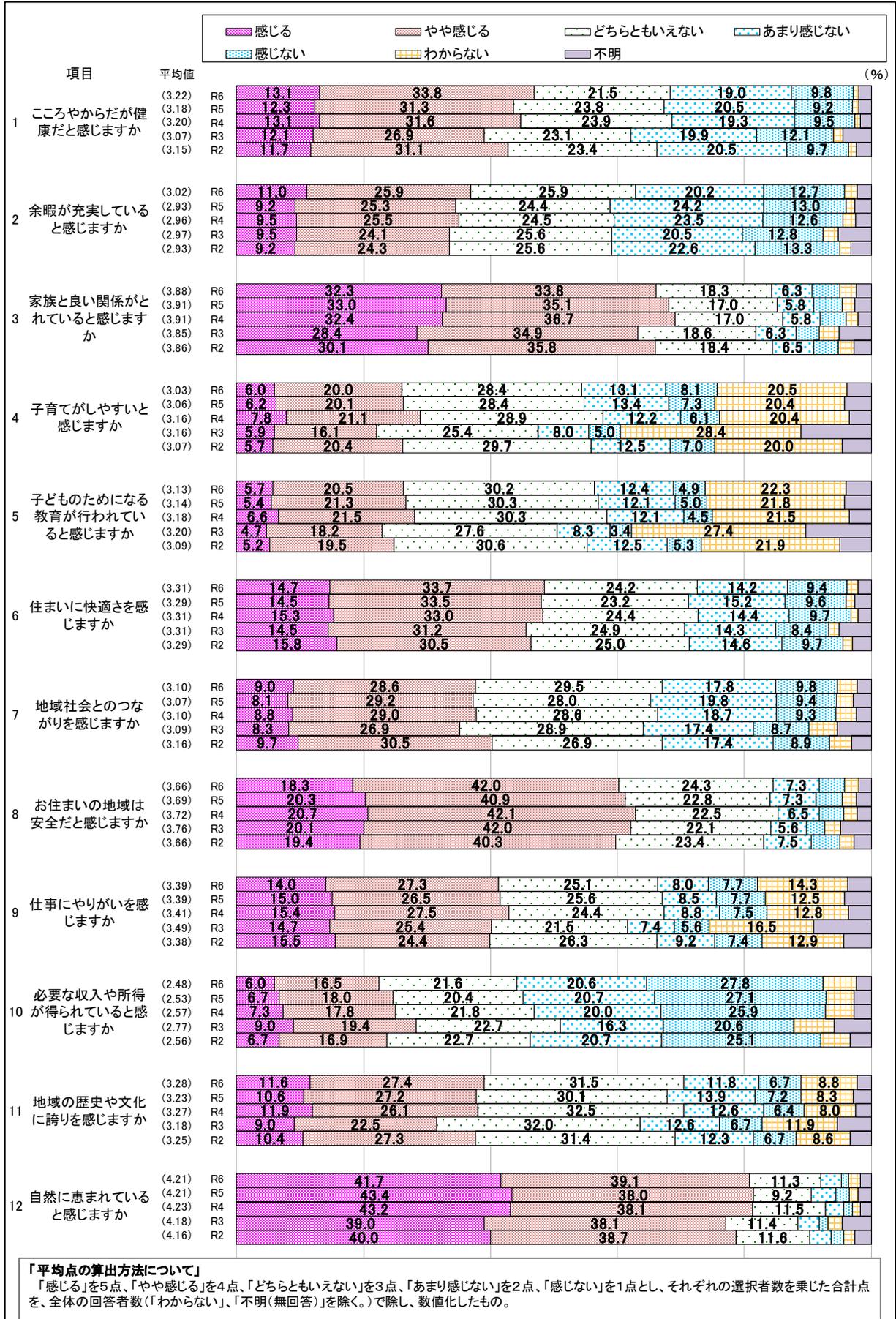
図 追加-3 【県民意識調査】新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況



注1) 「良い影響」は「よい影響を感じる」+「ややよい影響を感じる」の合計、「良くない影響」は「よくない影響を感じる」+「あまりよくない影響を感じる」の合計

注2) R3 調査では、設問を「あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか。」とし、項目1「心身の健康」は調査せず、項目11は「歴史や文化に触れる機会や場所への影響」、項目12は「自然の恵みを感じる機会への影響」として調査しました。

図 追加-4 【県民意識調査】分野別実感の回答状況



### 3 分析手法

#### (1) 新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況

新型コロナウイルス感染症の影響の度合いの変化を把握するため、分野ごとに、「良い影響を感じる」（「よい影響を感じる」＋「ややよい影響を感じる」）、「良くない影響を感じる」（「あまりよくない影響を感じる」＋「よくない影響を感じる」）、「どちらともいえない」＋「影響を感じない」の3つに区分し、その変化を把握しました。

#### (2) 新型コロナウイルス感染症の影響と分野別実感のクロス集計分析

分野ごとの新型コロナウイルス感染症の影響の度合いと、分野別実感の関連性を把握するため、以下の2つの項目間でクロス集計を行い、関連性の有無を確認しました。

なお、「心身の健康」については、「からだの健康」及び「こころの健康」で確認しました。

##### ○ 新型コロナウイルス感染症の影響の度合い（5区分）

新型コロナウイルス感染症の影響を「良い影響を感じる」（「よい影響を感じる」＋「ややよい影響を感じる」）、「どちらともいえない」、「良くない影響を感じる」（「あまりよくない影響を感じる」＋「よくない影響を感じる」）、「影響を感じない」、「不明」の5つに区分しました。

##### ○ 分野別実感（5区分）

分野別実感を「感じる」（「感じる」＋「やや感じる」）、「どちらともいえない」、「感じない」（「あまり感じない」＋「感じない」）、「わからない」、「不明」の5つに区分しました。

#### (3) 新型コロナウイルス感染症の影響別にみた分野別実感の平均値の差の検証

新型コロナウイルス感染症の影響と分野別実感の関連性を検証するため、「良い影響」（「よい影響を感じる」＋「ややよい影響を感じる」）、「どちらともいえない＋影響を感じない」、「良くない影響」（「あまりよくない影響を感じる」＋「よくない影響を感じる」）の3段階に区分し、それぞれの区分ごとに分野別実感の平均値（分野別に「感じる」から「感じない」までの5段階の回答に応じて5点から1点までを配点）を算出し、それらの差をt検定で検証し、5%水準で有意な差の有無を分析しました。

#### (4) 分野別実感の平均値の2時点比較【参考】

感染拡大前の令和2年と現状である令和6年の分野別実感の平均値の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差の有無を確認することで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前後の変化の有無を把握しました。

新型コロナウイルス感染症の流行が始まってから調査実施時点で約4年が経過しており、(4)の分析結果から新型コロナウイルス感染症が分野別実感の変動に与えた影響を推測するのは難しい状況ですが、昨年度まで行ってきた分析であることから、参考として分析したものです。

(注) 令和3年調査と令和4年から令和6年調査は、新型コロナウイルス感染症の影響に関する設問項目が以下のとおり異なります。これは、新型コロナウイルス感染症の影響と分野別実感の関連性を明確に意識していただき、新型コロナウイルス感染症の回答者自身への影響を回答していただくために設問を変更したものです。

[令和3年調査の設問]

あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をしてください。

[令和4年から令和6年調査の設問]

次に、問3-1で回答した実感に係る新型コロナウイルス感染症のあなたへの影響について最も近いものを1つ選び、番号に○をしてください。

## 4 結果の概要

### (1) 新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況 (P66 図 追加-3 参照)

「良い影響を感じる」(「よい影響を感じる」+「ややよい影響を感じる」)の割合は、各分野において、令和5年調査と比べ同程度かやや増加しました。

「良くない影響を感じる」(「あまりよくない影響を感じる」+「よくない影響を感じる」)の割合は、各分野において、令和5年調査と比べ減少しており、また、令和3年調査と比べると大きく減少しました。

「影響を感じない」の割合は、各分野において、令和5年調査と比べ増加しており、また、令和3年調査と比べると大きく増加しました。

「どちらともいえない」と「影響を感じない」の割合の合計は、令和5年調査と比べ増加しており、「家族関係」など10分野において、50%を超えました。

### (2) 新型コロナウイルス感染症の影響と分野別実感のクロス集計分析

(P71 表 追加-2 参照)

新型コロナウイルス感染症の影響と分野別実感をクロス集計したところ、新型コロナウイルス感染症の影響について「良い影響を感じる」とした回答者は、全ての分野別実感で「感じる」と回答(ポジティブに回答)した割合が最も高くなりました。

一方で、「良くない影響を感じる」とした回答者は、「からだの健康」「余暇の充実」「子育て」「住まいの快適さ」「地域社会とのつながり」「必要な収入や所得」の6分野で、「分野別実感」を「感じない」と回答(ネガティブに回答)した割合が最も高くなりました。

また、「子どもの教育」では、分野別実感を「どちらともいえない」と回答した割合が最も高くなり、それ以外の6分野では、「感じる」と回答(ポジティブに回答)した割合が最も高くなりました。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響について「良くない影響を感じる」とした回答者で、分野別実感を「感じない」と回答した割合は、「住まいの快適さ」及び「必要な収入や所得」を除く11分野において、50%未満でしたが、「必要な収入や所得」においては73.7%となっており、令和4年以降、他の分野に比べて高くなっています。

### (3) 新型コロナウイルス感染症の影響別にみた分野別実感の平均値の差の検証

(P78 表 追加-3 参照)

#### ① 「良い影響を感じる」と「どちらともいえない+影響を感じない」の比較

新型コロナウイルス感染症の影響について「良い影響を感じる」とした回答者と「どちらともいえない+影響を感じない」とした回答者の分野別実感の平均値の差の有無を検証しました。検証の結果、全ての分野別実感で、「良い影響を感じる」とした回答者は「どちらともいえない+影響を感じない」とした回答者よりも分野別実感が有意に高くなりました。

#### ② 「良くない影響を感じる」と「どちらともいえない+影響を感じない」の比較

新型コロナウイルス感染症の影響について「良くない影響を感じる」とした回答者と「どちらともいえない+影響を感じない」とした回答者の分野別実感の平均値の差の有無を検証したところ、10分野で、「良くない影響を感じる」とした回答者は「どちらともいえない+影響を感じない」とした回答者よりも分野別実感が有意に低くなりました。

このうち、「必要な収入や所得」において、新型コロナウイルス感染症の影響について「良くない影響を感じる」の回答者の実感平均値は1.90となっており、令和4年以降、他の分野に比べて実感が非常に低くなっています。

#### (4) 分野別実感の平均値の2時点比較【参考】(P79表 追加-4参照)

感染拡大前の令和2年と令和6年の分野別実感を比較した結果は、以下のとおりとなっています。

実感が上昇した分野(3分野):「心身の健康」「余暇の充実」「自然のゆたかさ」

実感が低下した分野(2分野):「地域社会とのつながり」「必要な収入や所得」

実感が横ばいの分野(7分野):「家族関係」「子育て」「子どもの教育」

「住まいの快適さ」「地域の安全」「仕事のやりがい」

「歴史・文化への誇り」

#### (5) 結果のまとめ

(1)の分析結果によると、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響は、各分野における「影響を感じない」の割合が、年々増加していること、「良くない影響を感じる」の割合が年々減少していることから、各分野別実感は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けなくなってきたことが推測されます。

なお、(2)の分析結果によると、「必要な収入や所得」においては、新型コロナウイルス感染症の影響を「良くない影響を感じる」とした回答者のうち、分野別実感を「感じない」と回答したのは73.7%と他分野に比べて多く、また、(3)の分析結果によると、「良くない影響を感じる」とした回答者の実感平均値が1.90と他分野に比べて低い状況が継続していることから、社会としては全体的に新型コロナウイルス感染症の影響は収まってきているものの、一部の分野においては、長期的に新型コロナウイルス感染症の影響が継続している可能性や、新型コロナウイルス感染症から原状回復が困難なほど大きな影響を受けた可能性が推測されます。

## 5 分析結果

### (1) 新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況

66 ページ図 追加-3 のとおりです。

### (2) 分野別実感と影響実感のクロス集計

表 追加-2-1 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（心身の健康）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	327	260	368	279	107	1,341
	やや感じる	(77.3%)	(36.6%)	(40.2%)	(50.5%)	(41.2%)	(46.9%)
	どちらともいえない	53	239	162	108	54	616
		(12.5%)	(33.6%)	(17.7%)	(19.6%)	(20.8%)	(21.5%)
	あまり感じない+	36	200	373	150	64	823
	感じない	(8.5%)	(28.1%)	(40.8%)	(27.2%)	(24.6%)	(28.8%)
	1	8	3	10	4	26	
	(0.2%)	(1.1%)	(0.3%)	(1.8%)	(1.5%)	(0.9%)	
	6	4	9	5	31	55	
	(1.4%)	(0.6%)	(1.0%)	(0.9%)	(11.9%)	(1.9%)	
合計		423	711	915	552	260	2,861
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

※ 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。以下、表1-12まで同様です。

表 追加-2-1-1 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（からだの健康）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	348	277	357	300	59	1,341
	やや感じる	(75.7%)	(37.7%)	(38.5%)	(51.1%)	(38.6%)	(46.9%)
	どちらともいえない	56	238	173	121	28	616
		(12.2%)	(32.4%)	(18.7%)	(20.6%)	(18.3%)	(21.5%)
	あまり感じない+	49	207	383	153	31	823
	感じない	(10.7%)	(28.2%)	(41.3%)	(26.1%)	(20.3%)	(28.8%)
	2	6	4	9	5	26	
	(0.4%)	(0.8%)	(0.4%)	(1.5%)	(3.3%)	(0.9%)	
	5	6	10	4	30	55	
	(1.1%)	(0.8%)	(1.1%)	(0.7%)	(19.6%)	(1.9%)	
合計		460	734	927	587	153	2,861
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表 追加-2-1-2 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（こころの健康）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	320	280	389	291	61	1,341
	やや感じる	(76.9%)	(37.1%)	(40.8%)	(50.5%)	(37.9%)	(46.9%)
	どちらともいえない	54	238	176	120	28	616
		(13.0%)	(31.5%)	(18.5%)	(20.8%)	(17.4%)	(21.5%)
	あまり感じない+	32	227	378	151	35	823
	感じない	(7.7%)	(30.1%)	(39.7%)	(26.2%)	(21.7%)	(28.8%)
	3	5	3	9	6	26	
	(0.7%)	(0.7%)	(0.3%)	(1.6%)	(3.7%)	(0.9%)	
	7	5	7	5	31	55	
	(1.7%)	(0.7%)	(0.7%)	(0.9%)	(19.3%)	(1.9%)	
合計		416	755	953	576	161	2,861
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表 追加-2-2 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（余暇の充実）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	315	214	253	223	52	1,057
	やや感じる	(69.4%)	(25.7%)	(29.6%)	(40.8%)	(30.1%)	(36.9%)
	どちらともいえない	86	328	171	118	38	741
		(18.9%)	(39.3%)	(20.0%)	(21.6%)	(22.0%)	(25.9%)
	あまり感じない+	48	264	419	172	40	943
	感じない	(10.6%)	(31.7%)	(49.1%)	(31.5%)	(23.1%)	(33.0%)
	1	17	3	30	7	58	
	(0.2%)	(2.0%)	(0.4%)	(5.5%)	(4.0%)	(2.0%)	
	4	11	8	3	36	62	
	(0.9%)	(1.3%)	(0.9%)	(0.5%)	(20.8%)	(2.2%)	
合計		454	834	854	546	173	2,861
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表 追加-2-3 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（家族関係）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる＋ やや感じる	663 (88.9%)	443 (54.9%)	241 (52.7%)	479 (67.5%)	65 (46.1%)	1,891 (66.1%)
	どちらともいえない	52 (7.0%)	240 (29.7%)	91 (19.9%)	117 (16.5%)	23 (16.3%)	523 (18.3%)
	あまり感じない＋ 感じない	19 (2.5%)	102 (12.6%)	108 (23.6%)	67 (9.4%)	10 (7.1%)	306 (10.7%)
	分からない	1 (0.1%)	13 (1.6%)	8 (1.8%)	43 (6.1%)	9 (6.4%)	74 (2.6%)
	不明	11 (1.5%)	9 (1.1%)	9 (2.0%)	4 (0.6%)	34 (24.1%)	67 (2.3%)
合計		746 (100.0%)	807 (100.0%)	457 (100.0%)	710 (100.0%)	141 (100.0%)	2,861 (100.0%)

表 追加-2-4 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（子育て）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる＋ やや感じる	178 (58.2%)	173 (24.2%)	126 (25.0%)	217 (19.7%)	50 (21.2%)	744 (26.0%)
	どちらともいえない	77 (25.2%)	257 (35.9%)	148 (29.4%)	295 (26.8%)	36 (15.3%)	813 (28.4%)
	あまり感じない＋ 感じない	33 (10.8%)	177 (24.8%)	190 (37.8%)	186 (16.9%)	23 (9.7%)	609 (21.3%)
	分からない	12 (3.9%)	103 (14.4%)	36 (7.2%)	386 (35.1%)	50 (21.2%)	587 (20.5%)
	不明	6 (2.0%)	5 (0.7%)	3 (0.6%)	17 (1.5%)	77 (32.6%)	108 (3.8%)
合計		306 (100.0%)	715 (100.0%)	503 (100.0%)	1101 (100.0%)	236 (100.0%)	2,861 (100.0%)

表 追加-2-5 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（子どもの教育）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	167	153	162	214	55	751
	やや感じる	(60.7%)	(21.5%)	(28.5%)	(20.2%)	(22.2%)	(26.2%)
	どちらともいえない	59	315	178	274	37	863
		(21.5%)	(44.3%)	(31.3%)	(25.9%)	(14.9%)	(30.2%)
	あまり感じない+	28	130	175	142	22	497
	感じない	(10.2%)	(18.3%)	(30.8%)	(13.4%)	(8.9%)	(17.4%)
	14	103	48	414	59	638	
	(5.1%)	(14.5%)	(8.5%)	(39.1%)	(23.8%)	(22.3%)	
	7	10	5	15	75	112	
	(2.5%)	(1.4%)	(0.9%)	(1.4%)	(30.2%)	(3.9%)	
合計		275	711	568	1059	248	2,861
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表 追加-2-6 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（住まいの快適さ）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	472	340	137	378	59	1,386
	やや感じる	(79.9%)	(38.9%)	(27.6%)	(51.2%)	(37.1%)	(48.4%)
	どちらともいえない	84	312	101	163	32	692
		(14.2%)	(35.7%)	(20.3%)	(22.1%)	(20.1%)	(24.2%)
	あまり感じない+	29	202	250	172	21	674
	感じない	(4.9%)	(23.1%)	(50.3%)	(23.3%)	(13.2%)	(23.6%)
	1	10	6	22	9	48	
	(0.2%)	(1.1%)	(1.2%)	(3.0%)	(5.7%)	(1.7%)	
	5	11	3	4	38	61	
	(0.8%)	(1.3%)	(0.6%)	(0.5%)	(23.9%)	(2.1%)	
合計		591	875	497	739	159	2,861
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表 追加-2-7 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（地域社会とのつながり）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	260	291	276	195	54	1,076
	やや感じる	(74.5%)	(30.8%)	(34.5%)	(31.8%)	(34.8%)	(37.6%)
	どちらともいえない	56	383	204	168	34	845
		(16.0%)	(40.5%)	(25.5%)	(27.4%)	(21.9%)	(29.5%)
	あまり感じない+	26	232	296	213	21	788
	感じない	(7.4%)	(24.6%)	(37.0%)	(34.7%)	(13.5%)	(27.5%)
	2	29	12	35	11	89	
	(0.6%)	(3.1%)	(1.5%)	(5.7%)	(7.1%)	(3.1%)	
	5	10	11	2	35	63	
	(1.4%)	(1.1%)	(1.4%)	(0.3%)	(22.6%)	(2.2%)	
合計		349	945	799	613	155	2,861
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表 追加-2-8 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（地域の安全）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	454	507	223	470	71	1,725
	やや感じる	(84.7%)	(51.7%)	(47.4%)	(65.6%)	(44.9%)	(60.3%)
	どちらともいえない	52	331	122	154	36	695
		(9.7%)	(33.8%)	(26.0%)	(21.5%)	(22.8%)	(24.3%)
	あまり感じない+	23	110	111	65	13	322
	感じない	(4.3%)	(11.2%)	(23.6%)	(9.1%)	(8.2%)	(11.3%)
	3	21	8	26	6	64	
	(0.6%)	(2.1%)	(1.7%)	(3.6%)	(3.8%)	(2.2%)	
	4	11	6	2	32	55	
	(0.7%)	(1.1%)	(1.3%)	(0.3%)	(20.3%)	(1.9%)	
合計		536	980	470	717	158	2,861
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表 追加-2-9 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（仕事のやりがい）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる＋ やや感じる	284 (82.8%)	303 (36.3%)	250 (40.2%)	294 (34.1%)	50 (25.1%)	1,181 (41.3%)
	どちらともいえない	34 (9.9%)	338 (40.5%)	137 (22.0%)	173 (20.0%)	35 (17.6%)	717 (25.1%)
	あまり感じない＋ 感じない	13 (3.8%)	116 (13.9%)	200 (32.2%)	98 (11.4%)	22 (11.1%)	449 (15.7%)
	分からない	6 (1.7%)	68 (8.2%)	31 (5.0%)	275 (31.9%)	29 (14.6%)	409 (14.3%)
	不明	6 (1.7%)	9 (1.1%)	4 (0.6%)	23 (2.7%)	63 (31.7%)	105 (3.7%)
合計		343 (100.0%)	834 (100.0%)	622 (100.0%)	863 (100.0%)	199 (100.0%)	2,861 (100.0%)

表 追加-2-10 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（必要な収入や所得）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる＋ やや感じる	160 (67.5%)	139 (19.4%)	112 (11.3%)	199 (26.6%)	33 (19.3%)	643 (22.5%)
	どちらともいえない	38 (16.0%)	267 (37.2%)	124 (12.6%)	165 (22.1%)	24 (14.0%)	618 (21.6%)
	あまり感じない＋ 感じない	32 (13.5%)	276 (38.4%)	727 (73.7%)	291 (38.9%)	58 (33.9%)	1,384 (48.4%)
	分からない	4 (1.7%)	27 (3.8%)	14 (1.4%)	87 (11.6%)	19 (11.1%)	151 (5.3%)
	不明	3 (1.3%)	9 (1.3%)	10 (1.0%)	6 (0.8%)	37 (21.6%)	65 (2.3%)
合計		237 (100.0%)	718 (100.0%)	987 (100.0%)	748 (100.0%)	171 (100.0%)	2,861 (100.0%)

表 追加-2-11 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（歴史・文化への誇り）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる＋ やや感じる	192 (75.0%)	343 (32.7%)	128 (43.1%)	415 (38.0%)	37 (21.9%)	1,115 (39.0%)
	どちらともいえない	37 (14.5%)	438 (41.8%)	81 (27.3%)	307 (28.1%)	38 (22.5%)	901 (31.5%)
	あまり感じない＋ 感じない	18 (7.0%)	176 (16.8%)	77 (25.9%)	231 (21.2%)	28 (16.6%)	530 (18.5%)
	分からない	6 (2.3%)	77 (7.3%)	8 (2.7%)	135 (12.4%)	25 (14.8%)	251 (8.8%)
	不明	3 (1.2%)	14 (1.3%)	3 (1.0%)	3 (0.3%)	41 (24.3%)	64 (2.2%)
合計		256 (100.0%)	1048 (100.0%)	297 (100.0%)	1091 (100.0%)	169 (100.0%)	2,861 (100.0%)

表 追加-2-12 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（自然のゆたかさ）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる＋ やや感じる	686 (94.6%)	570 (72.3%)	120 (75.0%)	853 (82.5%)	83 (53.9%)	2,312 (80.8%)
	どちらともいえない	17 (2.3%)	153 (19.4%)	22 (13.8%)	109 (10.5%)	22 (14.3%)	323 (11.3%)
	あまり感じない＋ 感じない	7 (1.0%)	47 (6.0%)	17 (10.6%)	46 (4.4%)	7 (4.5%)	124 (4.3%)
	分からない	6 (0.8%)	13 (1.6%)	1 (0.6%)	24 (2.3%)	9 (5.8%)	53 (1.9%)
	不明	9 (1.2%)	5 (0.6%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)	33 (21.4%)	49 (1.7%)
合計		725 (100.0%)	788 (100.0%)	160 (100.0%)	1034 (100.0%)	154 (100.0%)	2,861 (100.0%)

## (3) 新型コロナウイルス感染症の影響実感の違いによる分野別実感平均値の差 (t 検定)

表 追加-3 影響実感の内容別の実感平均値とその差

政策分野	分野別実感	実感平均値の差		
		どちらともいえない +影響を感じない	良い影響 を感じる	良くない影響 を感じる
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.17	3.94	2.95
			↑ (0.77)	↓ (Δ0.22)
	(2) 余暇の充実	2.96	3.81	2.70
			↑ (0.86)	↓ (Δ0.25)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.77	4.35	3.46
			↑ (0.58)	↓ (Δ0.30)
	(4) 子育て	2.98	3.65	2.74
			↑ (0.66)	↓ (Δ0.24)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.08	3.69	2.93
			↑ (0.61)	↓ (Δ0.15)
IV 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.26	4.02	2.60
			↑ (0.75)	↓ (Δ0.66)
	(7) 地域社会とのつながり	2.98	3.89	2.93
			↑ (0.92)	- (Δ0.04)
V 安全	(8) 地域の安全	3.61	4.12	3.29
			↑ (0.51)	↓ (Δ0.32)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.35	4.20	3.02
			↑ (0.85)	↓ (Δ0.33)
	(10) 必要な収入や所得	2.68	3.74	1.90
			↑ (1.06)	↓ (Δ0.77)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.21	4.03	3.19
			↑ (0.82)	- (Δ0.02)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.14	4.50	3.95
			↑ (0.36)	↓ (Δ0.19)

※1 t検定の結果、5%水準で有意な差が確認されなかったものは、「-」で表記しています。

※2 「どちらともいえない+影響を感じない」に比べて、「良い影響を感じる」又は「良くない影響を感じる」の実感が高いところを□、低いところを■で網掛けしています。

(4) 分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（令和2年調査）との比較

表 追加-4 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（R2年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移				
		R2	R3	R4	R5	R6 (当該年度)
Ⅰ健康・余暇	(1) 心身の健康	3.15	3.07 ↓ (Δ0.08)	3.20 - (0.05)	3.18 - (0.02)	3.22 ↑ (0.07)
	(2) 余暇の充実	2.93	2.97 - (0.04)	2.96 - (0.02)	2.93 - (0.00)	3.02 ↑ (0.09)
Ⅱ家族・子育て	(3) 家族関係	3.86	3.85 - (Δ0.01)	3.91 - (0.04)	3.91 - (0.04)	3.88 - (0.01)
	(4) 子育て	3.07	3.16 ↑ (0.09)	3.16 ↑ (0.09)	3.06 - (Δ0.01)	3.03 - (Δ0.04)
Ⅲ教育	(5) 子どもの教育	3.09	3.20 ↑ (0.11)	3.18 ↑ (0.09)	3.14 - (0.04)	3.13 - (0.04)
	(6) 住まいの快適さ	3.29	3.31 - (0.02)	3.31 - (0.01)	3.29 - (Δ0.00)	3.31 - (0.02)
Ⅳ居住環境・コミュニティ	(7) 地域社会とのつながり	3.16	3.09 ↓ (Δ0.06)	3.10 ↓ (Δ0.06)	3.07 ↓ (Δ0.09)	3.10 ↓ (Δ0.06)
	(8) 地域の安全	3.66	3.76 ↑ (0.10)	3.72 ↑ (0.06)	3.69 - (0.03)	3.66 - (0.00)
Ⅵ仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.38	3.49 ↑ (0.11)	3.41 - (0.03)	3.39 - (0.01)	3.39 - (0.01)
	(10) 必要な収入や所得	2.56	2.77 ↑ (0.21)	2.57 - (0.01)	2.53 - (Δ0.03)	2.48 ↓ (Δ0.08)
Ⅶ歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.25	3.18 ↓ (Δ0.08)	3.27 - (0.02)	3.23 - (Δ0.03)	3.28 - (0.03)
	(12) 自然のゆたかさ	4.16	4.18 - (0.02)	4.23 ↑ (0.07)	4.21 ↑ (0.05)	4.21 ↑ (0.05)

※1 令和2年調査と比べて、実感が上昇した分野を□、低下したところを□で網掛けしています。

※2 小数点以下については四捨五入しているため、R2年と対象年の差（ ）が合わないことがあります。



## **【補足資料】**

- 1 広域振興圏別の主観的幸福感及び分野別実感の推移**
- 2 「子育て」に関する分野別実感の推移**

# 1 広域振興圏別の主観的幸福感及び分野別実感の推移

県民意識調査においては、平成 28 年から幸福感に関する設問を設けてきました。今年度の年次レポートの作成に当たり、各広域振興圏における施策等を推進する上で参考となるよう、平成 28 年以降の広域振興圏別の主観的幸福感及び分野別実感の推移をまとめました。

図 補足-1 【県民意識調査】主観的幸福感の実感平均値の推移（広域振興圏別）

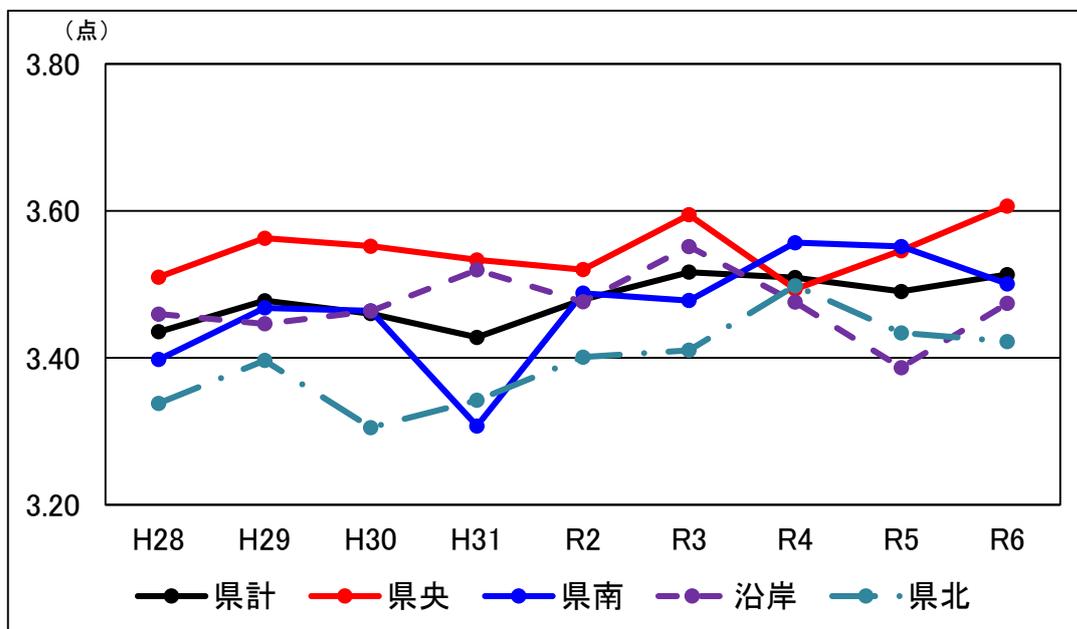


図 補足-2 【県民意識調査】分野別実感の実感平均値の推移（県央広域振興圏）

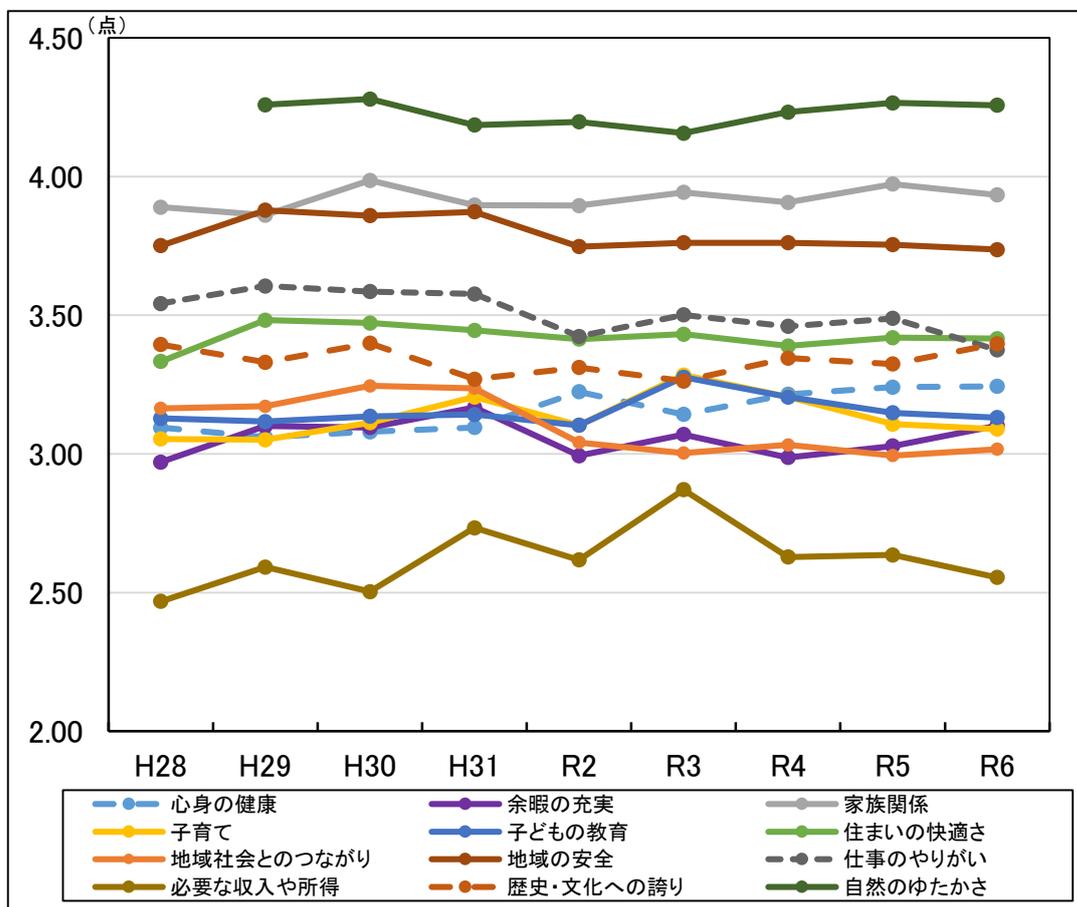


図 補足-3 【県民意識調査】分野別実感の実感平均値の推移（県南広域振興圏）

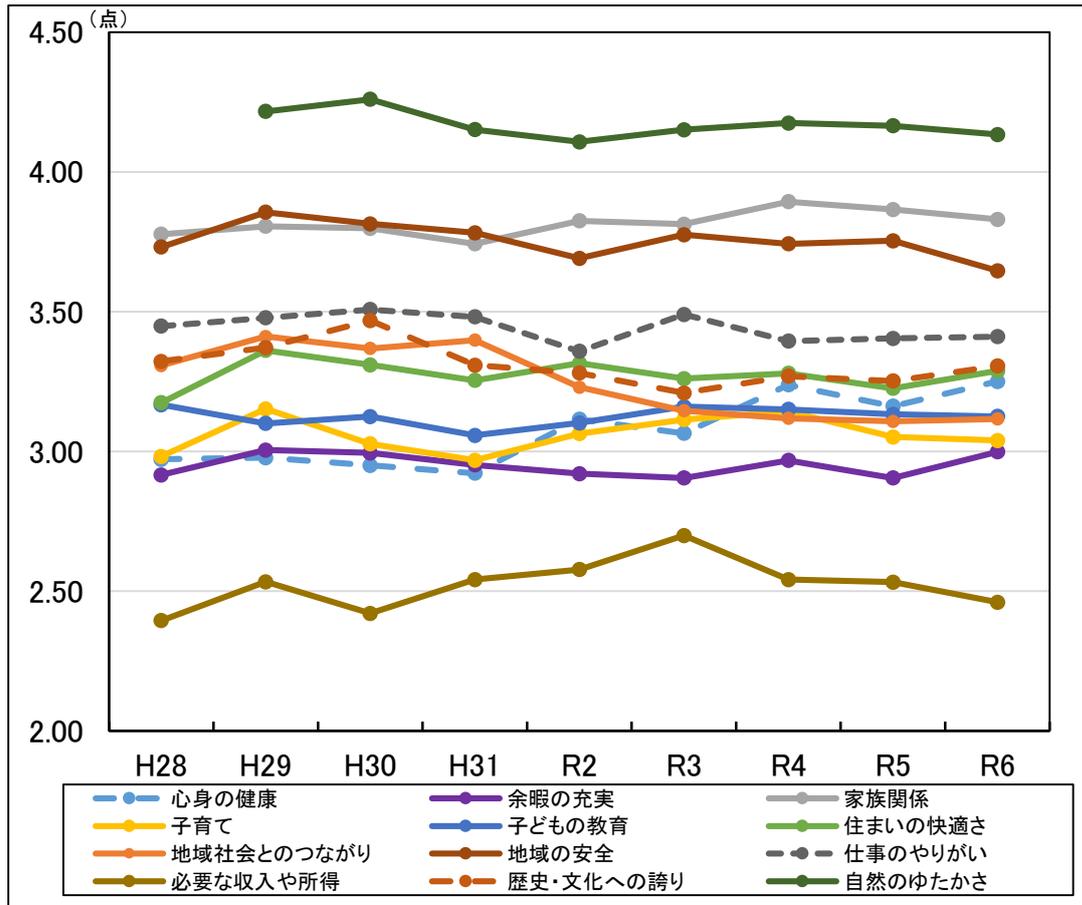


図 補足-4 【県民意識調査】分野別実感の実感平均値の推移（沿岸広域振興圏）

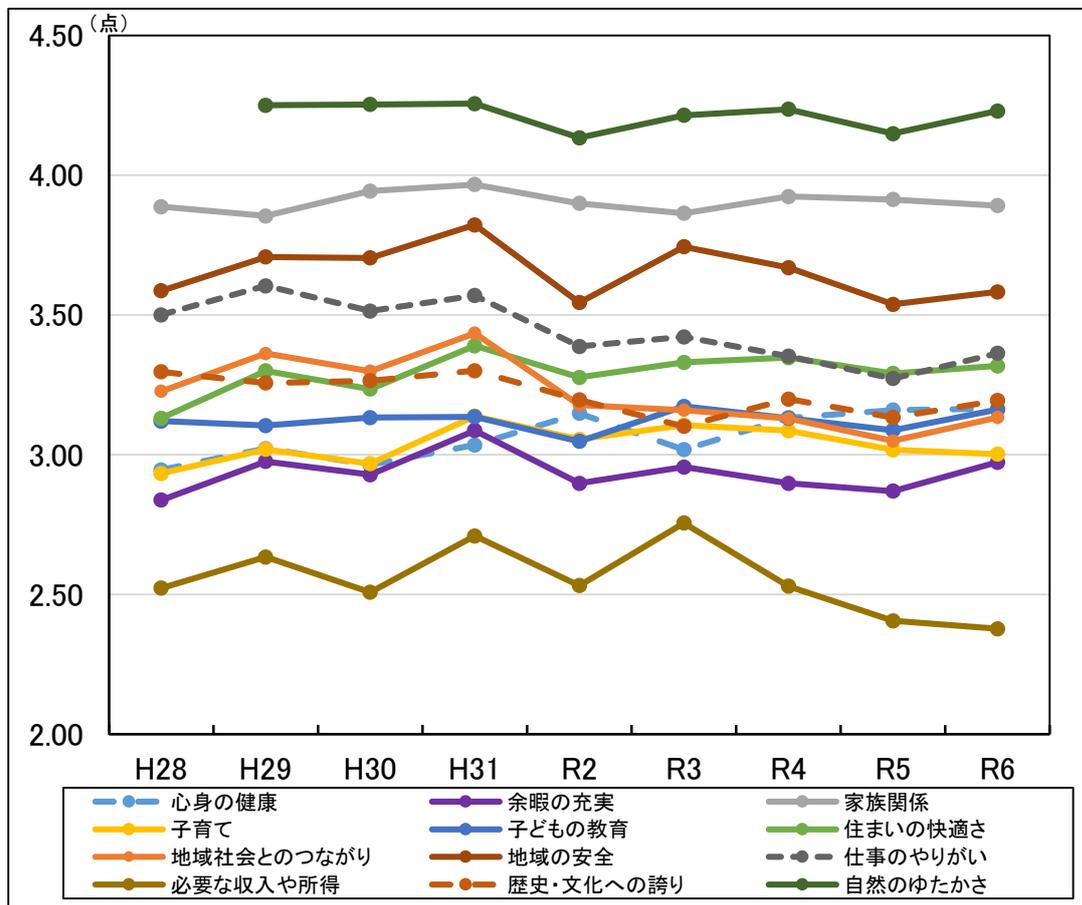
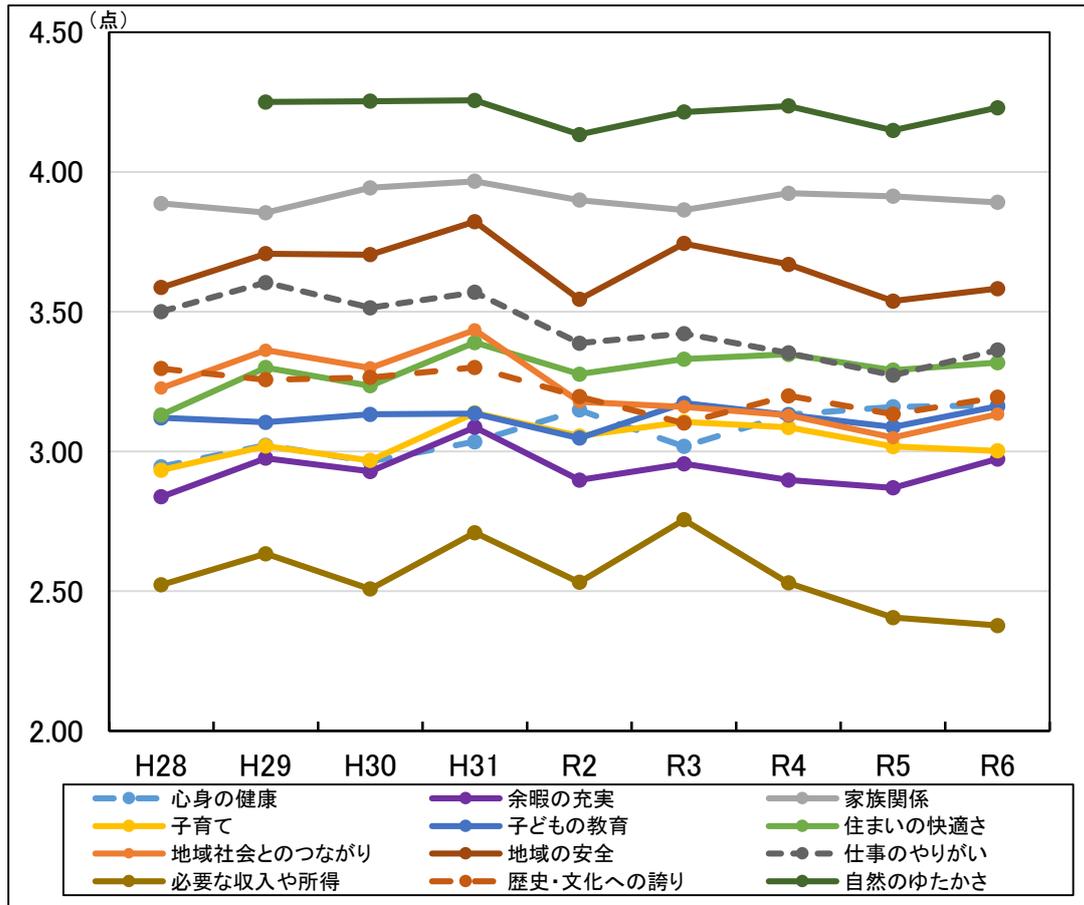


図 補足-5 【県民意識調査】分野別実感の実感平均値の推移（県北広域振興圏）



## 2 「子育て」に関する分野別実感の推移

分析部会では、令和5年度の年次レポートにおける追加分析として、「子育て」に関する分野別実感の推移と変動要因について分析を行いました。その結果、「子どもはいない人」の子育て環境に対する評価が、「20～29歳」、「30～39歳」が子どもを持つことに影響を与えている可能性が考えられました。

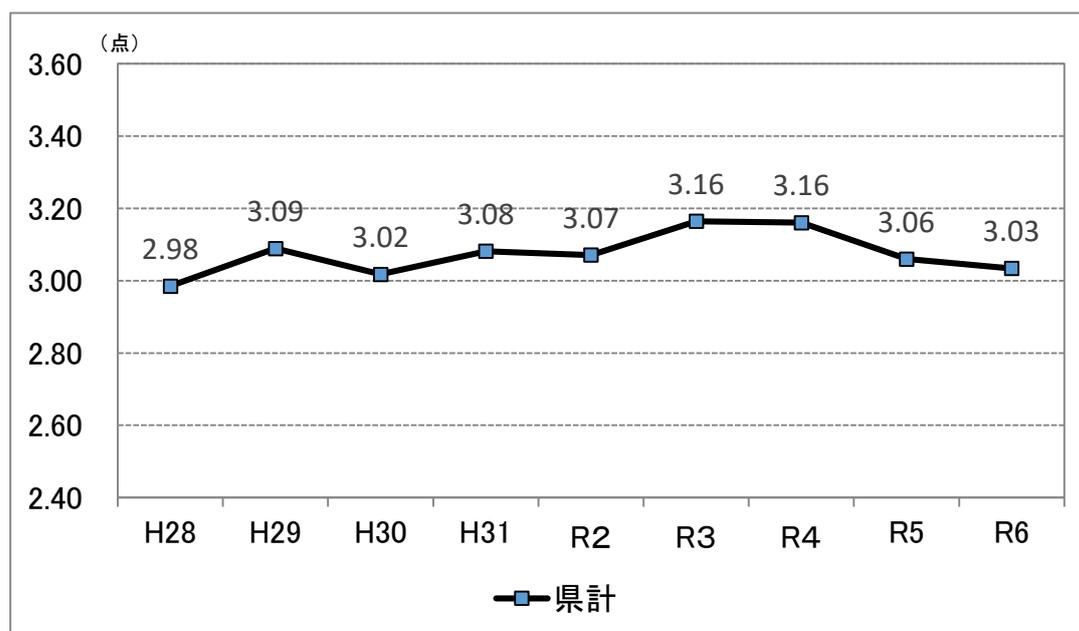
そこで、今年度の年次レポートの作成に当たり、令和6年県民意識調査の結果から属性別の分野別実感の平均値を更新し、その推移を確認しました。

なお、分野別実感の分析に当たっては、「子育てがしやすいと感じますか」との設問に対し、「感じる」、「やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない」、「感じない」の5段階の回答に応じて5点から1点までを配点することで得点化しています（「わからない」及び未回答は、集計から除外）。従って、点数が高いほど子育てのしやすさを感じていることを表します。

### (1) 分野別実感の推移

令和6年県民意識調査における「子育て」の分野別実感平均値は3.03点であり、前年に比べ横ばいでした（図 補足-6）。

図 補足-6 【県民意識調査】「子育て」に関する分野別実感平均値（県計）の推移



### (2) 属性別の分野別実感の推移

- ・ 男女別では、引き続き「女性」が「男性」を上回っています（図 補足-7）。
- ・ 年代別では、「30～39歳」及び「40～49歳」において、低下傾向が継続しています（図 補足-8）。
- ・ 子どもの数別では、子どもがいる（「1人」、「2人」、「3人」、「4人以上」）に比べ、「子どもはいない」が、引き続き低い値で推移しています（図 補足-9）。

また、年代別と子どもの有無別での多重クロス集計では、「20～29歳」において「子どもはいない」が「子どもがいる（子どもの数が「1人」「2人」「3人」「4人以上」を統合し集計）」を上回りましたが、それ以外の年代では、「子どもはいない」が「子どもがいる」に比べて、一貫して低い値で推移する傾向が続いています（図 補足-10）。

図 補足-7 【県民意識調査】「子育て」に関する分野別実感平均値（性別）の推移

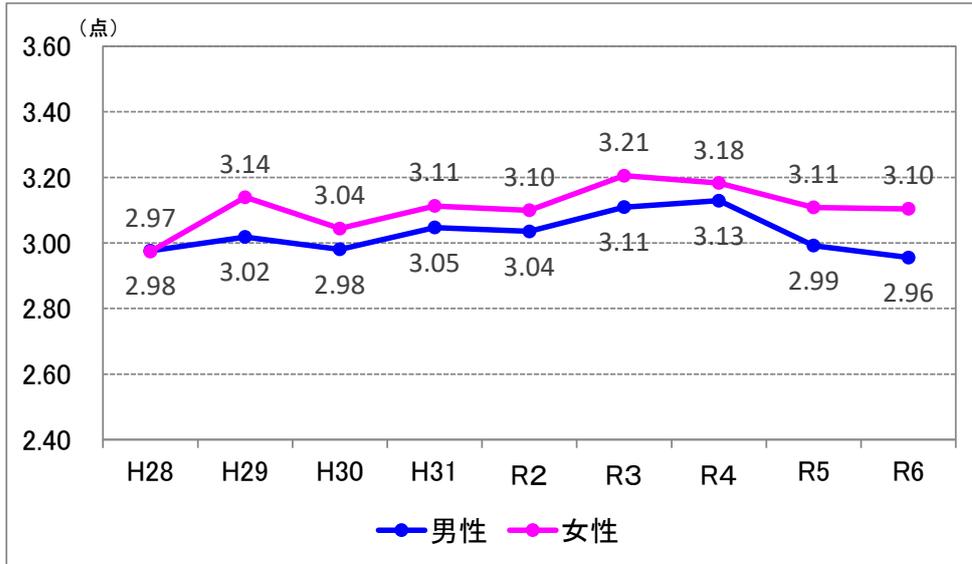


図 補足-8 【県民意識調査】「子育て」に関する分野別実感平均値（年代別）の推移

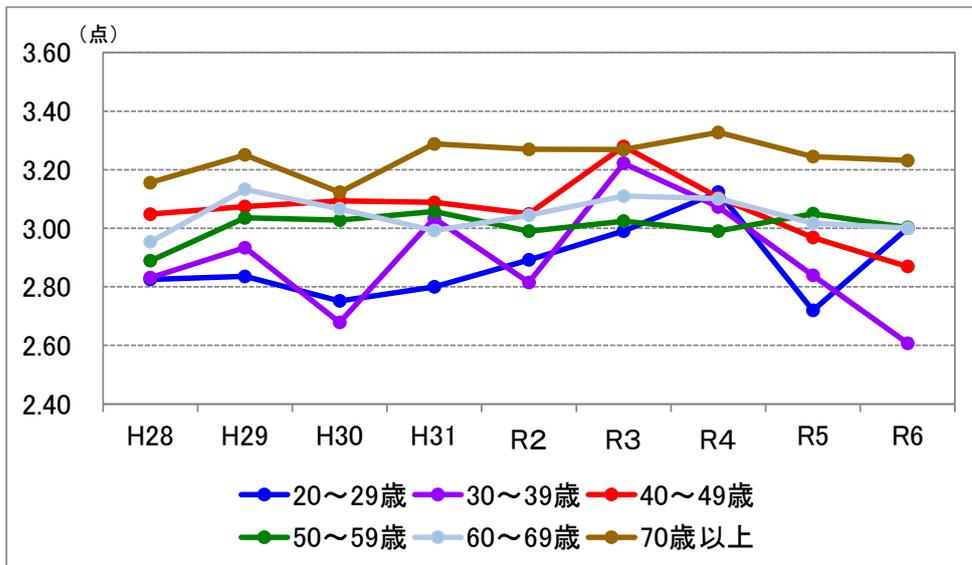


図 補足-9 【県民意識調査】「子育て」に関する分野別実感平均値（子どもの数別）の推移

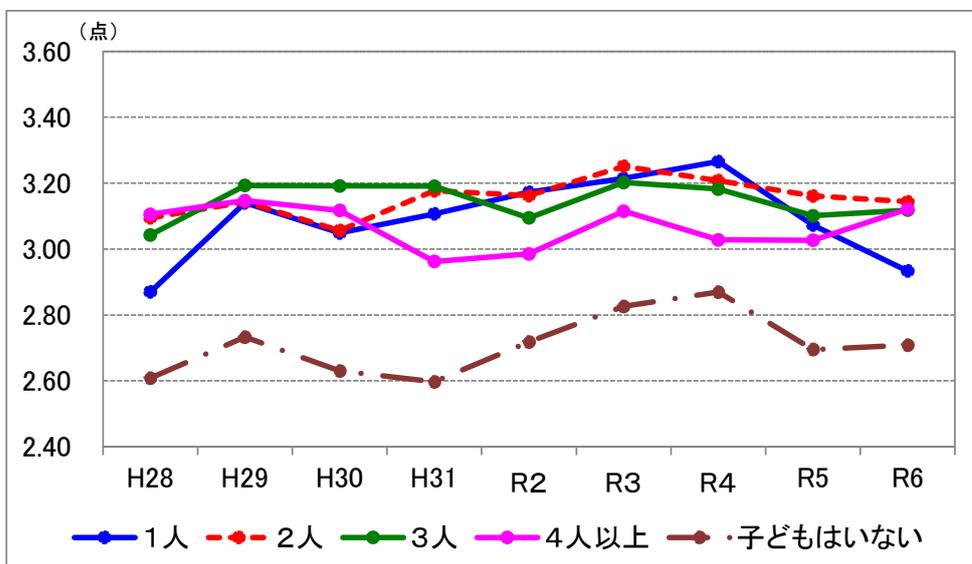
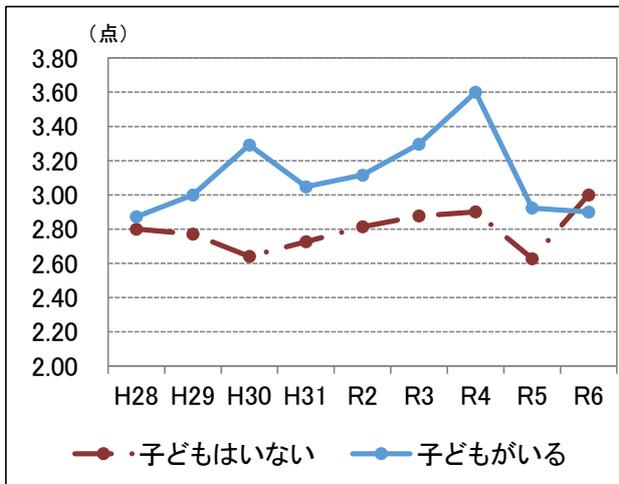
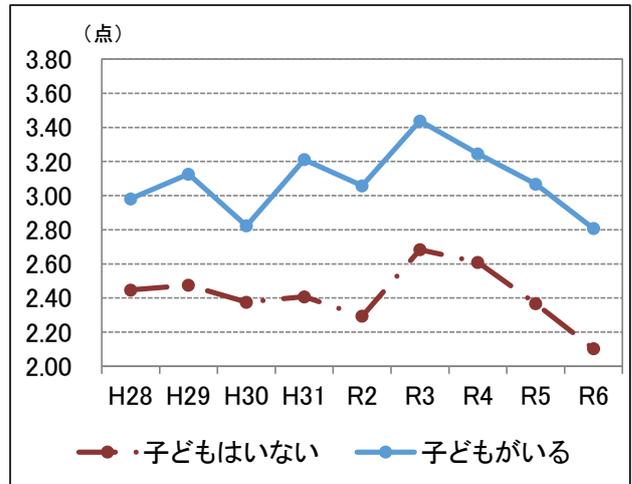


図 補足-10 【県民意識調査】「子育て」に関する分野別実感平均値（年代別・子どもの有無別）の推移

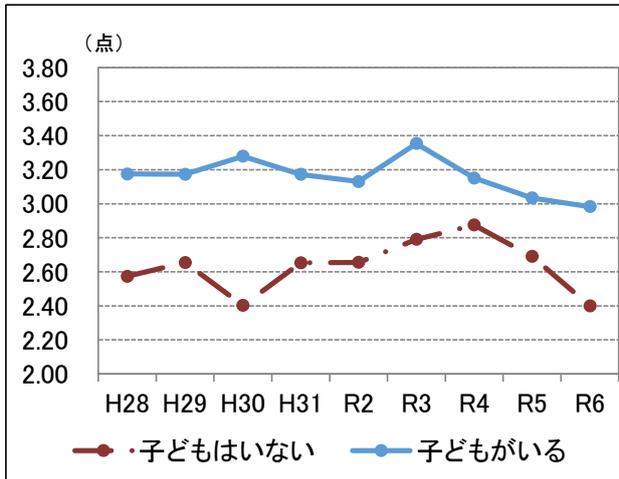
(20～29 歳)



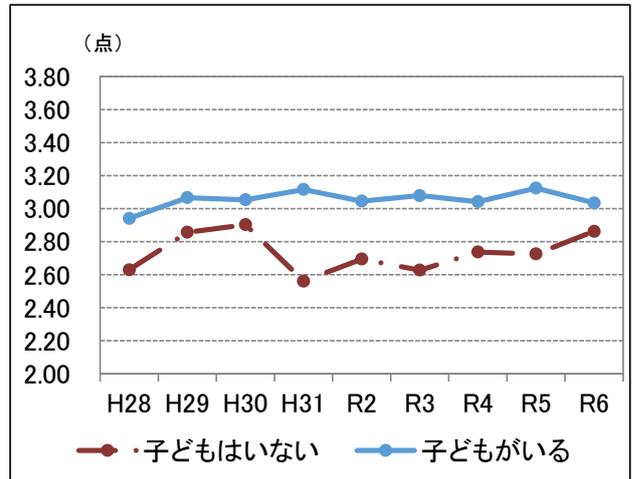
(30～39 歳)



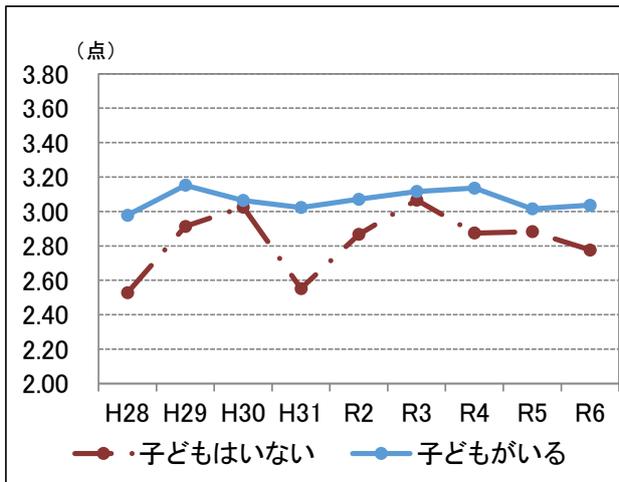
(40～49 歳)



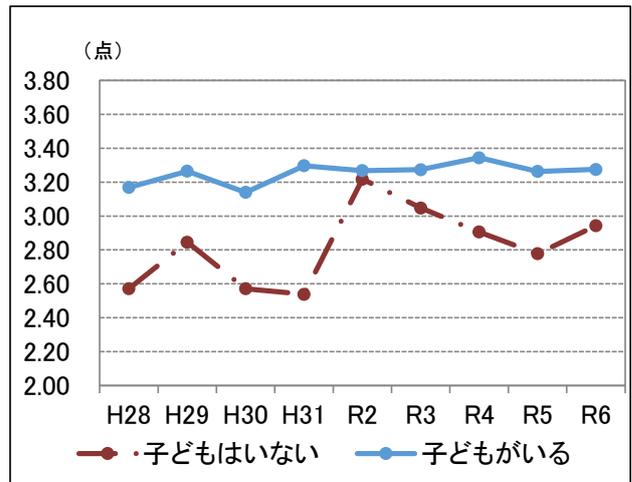
(50～59 歳)



(60～69 歳)



(70 歳以上)



## <参考>

### 参考1 県民の幸福感に関する分析部会運営要領

#### (設置)

第1条 岩手県附属機関条例（令和5年岩手県条例第4号）第7条第1項の規定に基づき、岩手県総合計画審議会に県民の幸福感に関する分析部会（以下「部会」という。）を置く。

#### (所掌)

第2条 部会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 「県の施策に関する県民意識調査」等で把握した、県民の幸福に対する実感の分析に関すること。
- (2) その他いわて県民計画の推進に当たって必要な事項に関すること。

#### (組織)

第3条 部会は、委員7名以内で組織し、岩手県総合計画審議会の委員及び専門委員をもって構成する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

#### (部会長及び副部会長)

第4条 部会に、部会長及び副部会長を各1名置く。

2 部会長及び副部会長は、委員の互選によって定める。

3 部会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

#### (オブザーバー)

第5条 部会にオブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、知事が任命する。

3 オブザーバーは、必要に応じて会議に出席し、意見を述べるができる。

#### (会議)

第6条 部会は、知事が招集する。

2 部会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

#### (意見の聴取)

第7条 部会は、必要に応じて専門的知識を有する者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

#### (庶務)

第8条 部会の庶務は、政策企画部政策企画課において処理する。

#### (補則)

第9条 この要領に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

##### 附 則

この要領は、令和元年6月6日から施行する。

##### 附 則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

##### 附 則

この要領は、令和4年4月1日から施行する。

##### 附 則

この要領は、令和5年4月1日から施行する。

##### 附 則

この要領は、令和6年4月1日から施行する。

## 参考2 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏名	現所属等	備考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部会長
和川 央	岩手県立大学宮古短期大学部 准教授	副部会長
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
谷藤 邦基	岩手県立大学地域政策研究センター 客員教授	
Tee Kian Heng	岩手県立大学総合政策学部 教授	
渡部 あさみ	岩手大学人文社会科学部 准教授	
広井 良典	京都大学 人と社会の未来研究院 教授	オブザーバー

## 参考3 令和6年度における部会開催状況等

月日	検討内容等
5月20日(月)	<b>第1回部会開催</b> (1) 県民の幸福感に関する分析部会について（審議内容等） (2) 分析方針について (3) 分野別実感の分析について
5月27日(月)	<b>第2回部会開催</b> (1) 分野別実感の分析について
6月3日(月)	<b>第3回部会開催</b> (1) 分野別実感の分析について
6月17日(月)	<b>第4回部会開催</b> (1) 分野別実感の分析について
7月18日(木)	<b>第5回部会開催</b> (1) 分野別実感等の分析について (2) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和6年度年次レポート(素案)について
9月10日(火)	<b>第6回部会開催</b> (1) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和6年度年次レポート(案)について (2) 令和7年県民意識調査(補足調査)について
11月22日(金)	<b>第107回総合計画審議会</b> で分析結果を報告

岩手県総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」  
令和6年度年次レポート

発行 令和6年11月

発行者 岩手県総合計画審議会 県民の幸福感に関する分析部会

事務局 岩手県政策企画部政策企画課

TEL 019-629-5181 FAX 019-629-6229